

## 第2回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 議事要旨

日 時 平成18年10月4日(水) 午後7時から午後9時30分

会 場 シビックセンター2102・2103 会議室

### 議事次第

1. 開会あいさつ
2. 新委員紹介
3. 文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題について
4. 調査について
5. その他

### 出席者

汐見稔幸会長、萩原久美子副会長、佐々木陽穂委員、大川米子委員、小林信男委員、深谷純子委員、菅原良次委員、飯田恭委員、安達陽子委員、高橋修平委員、高橋万由美委員、久武昌人委員、森吉弘委員、紀野美重子委員、藤田くる美委員、安江とも子委員、小林大作委員、大角保廣委員、根岸かをる委員、吉田シズ子委員

### 議事録

(保育課長) それでは、皆様こんばんは。定刻になりましたので、第2回文京区保育ビジョン策定検討委員会を開催させていただきます。

それでは最初に、汐見会長の方からごあいさつをいただければと思います。

(会長) 皆さんこんばんは。先回から議論が始まりましたが、実質的には今回が中身をめぐると本格的な議論の第1回になります。限られた時間ではありますが、文京区の新しい保育ビジョンを策定するためにぜひこういうことをやってはどうか、という中身を積極的に発言していただきたいと思います。今日もよろしく願いいたします。

それでは最初に、資料の説明からお願いします。

(保育課長) それでは冒頭、席上の配布資料についてご確認をいただきたく思います。最初に次第が1枚ものとしてお渡しをさせていただきます。それと、おめくりいただきまして資料3-2号で、今回、父母の会連絡会からの委員の変更がございました関係で、名簿を新しくさせていただきますので、ご確認ください。

それから資料第6号でございます。同シートについては事前にご自宅に送付して確認をいただいているところですが、文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題の項目(案)を示してございます。

その後、資料第7号、A4横のものですが、文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題の整理、作業シートになってございます。これについても、事前にご自宅の方に送付させていただきます。

それから、各委員から事前に資料等のご提出をいただいておりますので、お席の方にお配りをさせていただきます。資料の確認については以上でございます。資料がなければ、お手を挙げていただければ事務局の方からお渡しをいたします。以上です。

(団体推薦委員) すみません、資料をもう1つよろしいですか。保護者のアンケートを。

(会長) ちょっと待ってください。後で必要なときに。

(団体推薦委員) じゃあ、預かっていただきます。

(会長) よろしくお祈いします。新委員の紹介をお願いいたします。

(保育課長) それでは、今回、文京区認可保育園父母の会連絡会の方から委員の変更がございました。

(団体推薦委員) よろしくお祈いします。遅くなってすみませんでした。

(会長) 一言ずつ、前回からみんなあいさつをしているんですが、簡単にお祈いいたします。

(保育課長) それでは、担当の方がマイクを回しますのでよろしくお祈いします。

(団体推薦委員) お世話になっております。よろしくお祈いします。

こういった会を開いていただきまして、誠にありがとうございます。保育のあり方なんですけれども、行政に任せているだけではなくて、私のような一市民も参加して、全国に先駆けた保育ビジョンをつくれたらと思って参加させていただきました。よろしくお祈いします。

(団体推薦委員) 現在、1歳児、3歳児、4歳児、それから小学校5年生と、今、5人目が今月産み月なんですけれども。一応、子どもがそれだけたくさんいるということで選んでいただきましたので、日ごろから肌で感じていること、そういったことを審議に対して訴えたいと思います。よろしくお祈いします。

(会長) どうもありがとうございます。それでは、本日の議論を始めたいと思います。本日の議題については資料6と7を見ていただきたいんですが、第6号が文京区保育ビジョン策定に向けた検討課題項目で、そのための作業シートが第7号になっております。これについて簡単にご説明申し上げますので、中身についてご意見をいただきたいと思います。

この策定委員会で、文京区の保育ビジョン、こういう保育システムを文京区にぜひつくってほしいというビジョンを策定するにあたって、こういう事項を検討していかなければいけないというのを、前回のご議論を踏まえて整理させていただいたものがこれになります。区長の方から諮問をいただいたわけですが、その諮問された中身が、一応大きく4つの柱に整理されるだろうということと、前回ご議論いただいた委員のある種の思いのようなものを、この項目の文言の中に盛り込んだわけです。それで、一応この4つの具体的な内容、あるいは目標というのが抽出されたわけです。

ここにありますように、1つは、子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障を実現したい。それから2つ目は、子育て・親育ち、いわゆる子育て支援と言っているものですが、その中に子育て支援、それから親育ち支援というものを含めて、場合によっては家族支援ということが入ってくると思いますが、それを文京区でどこまで豊かに実現するかという柱が立つということですね。

それから前回出ましたけれども、今、親の就労というのが非常に厳しくなっている。その中で、親の就労、それから親自身が多様な生き方を、子育てということを媒介としながら追求している。その生き方を支援していくという柱が立つ。

それから4番目には、そういう文京区づくりの中で、保育所の果たす機能というもの非常に重要になってくるという意味で、保育所をさらに充実させていくという柱が立つだろうということで、大きく4つの目標をここで立てて、その各論として、3項目目、それぞれの中身をこれから私たちが議論して埋めていくというような作業にしてはどうかというふうになっているわけです。簡単に、3の①でこういう項目を、②でこういう中身を、③、④では…というふうにご

ではまとめております。

こういう大きな柱に一応整理させていただいたのは、議論できる回数が非常に限られているということがございます。ある程度枠を整えながら議論して、ここに何を書き込むのかという詰め方をしていかなければ、枠を取っ払って議論をしていくと際限なくいろいろ広がって行って、收拾がつかなくなるということを恐れているということが1つあります。それから、すでに諮問された項目がはっきりしておりますので、それに沿ってやっていかないと諮問に対応した内容にならないのではないかとということがございまして、こういう柱にさせていただいているわけです。これでいいかどうかということ、後でご議論いただきたいと思います。

同時に、資料第7号の方は、2ページ目をめくっていただければよろしいんですが、各論の中に前回の議論と、その後の委員の皆さんのご意見を勘案して、こういう項目を入れたらどうかということについて、現在、提案できるだけですけれども、中身を書かせていただいています。

例えば①の「子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障」というところで、星印のところはカテゴリーになりますけれども、「地域での安心・安全、豊かな育ちへの取組み」という柱になります。それからもう1つは、「保育所での安心・安全、豊かな育ちへの取組み」となって、その中に地域の交通、子どもたちの安全な交通というものをどう実現するか。公園での遊びでの安全・安心をどう保障するか等々の項目が立っていくのではないかと、そういうふうにある程度枠をつくって議論をしていった方が、たぶん作業としては効率的ではないかということで、こういう案を出させていただいております。

ちょっとご覧いただいて、ここにもっとこういう項目を付け加えるべきではないかとか、こういうのは不要ではないかというようなご意見をしばらくいただきたいというのが、今日の最初の議論のテーマであります。

ご質問も含めて、これをちょっと読んでいただいて、最終的な文章がどういうふうになるかということとは別なんですけど、こういう柱に沿って順番に詰めていくという検討の仕方をした方が効率的ではないかということで、提案させていただきます。これについて、ご意見、ご質問等を最初にお願ひしたいと思います。

(団体推薦委員) 時間も限られるので、枠をある程度設定して、それに何が乗るのかというのは、ある意味効率的でいいと思うんですが、1つ気になるのは、とにかく調査をするという予定が立っていて、その調査によって文京区の実態を把握して、そこから考えていく、そういうプロセスも大事ではないかと思ひます。

ここで何かいろいろなことを言おうとすると、それこそとりとめもなくなってくるという面もあるので、調査とこの内容の検討、その関係はどうあるべきかということ、を議論した方が効率的ではないかと思ひます。

(会長) 調査については、今日のもう1つの議論の柱になっているんですが、ちょっとご意見をいただいた方がいいかもしれませんが、実はそんなに時間的なゆとりがない委員会ですと、調査結果が出てくるのを待っていますと、たぶんまとまるまでにいくら早くしたとしても2~3カ月は間違いなくかかりますでしょう。そうすると、それを待っていますともうほとんど議論の余地がなくなってしまう。

前回少し申し上げましたけれども、調査そのものも、ここで柱をある程度提案して議論していただいた上で、誰に対してどういう調査を行うかということを決めていただいたときに、大量アンケート調査だったら私たちは直接かわらなくてもいいんですけれども、もう少しインテンシブな聞き取りの調査をする、やりとりをしながらですね。つまり、アンケートの表面的なところ

では出てこない、今、文京区で子育てをしている親御さんたちは、実はこういう悩みを抱えているんだとか、こういう要望を持っているんだということを引き出すような調査もしたいと思っているわけです。これは後で提案いたします。

そうしますと、そういう調査の担い手として、実はこの委員の方に分担いただきたいとこちらでは思っているわけです。ですから、そういうことを並行してやっていただきながら議論に参加していただくということで、そこの中身に反映させていきたいと。

それから、今、簡単にご説明申し上げましたが、こういう項目が立ちますと、この項目の中身は誰かが書くんじゃないで、私どもで書くという。要するに、こういう中身を持ってほしいという形で、それをまた少したたき合っというようなことで、実はビジョンをつくるという中身づくりにそれぞれのメンバーがかなり有機的にかかわっていくということになりますので、その過程で、調査をしている中身が反映していくというようなことをある程度期待するしか、今のスケジュールではなかなかちょっと、申し訳ないんですが、難しいと思っております。私と事務局ではそういうふうを考えております。

(団体推薦委員) まとめていただきまして誠にありがとうございます。ただ、国の諮問機関であればこういった内容でいいと思うんですね、国の諮問機関であれば。ここは文京区の保育ビジョンを出すということであって、今、会長さんが、これからマーケティングをやったり取材をしたりして、併せて議論をしていくと言われているんですが、僕の仕事で言いますと、取材もしていないのに、いわば番組の提案を書きなさいというようなことなんですよ。

それはもう漠然としていて、文京区なんだけれども、国の保育ビジョンのあり方を検討しようじゃないかという方向性で、例えば文京区ではいろいろな特質があると思うんです。住んでいる人とか、所得とか、保育ニーズとか、そういうことが分かった上で議論を進めた方が、より効果的に議論が進められるというか、その方がより具体的な意見を出していけると考えます。いかがでしょうか。

(会長) すでに文京区の住民がどういうニーズを持っているとか、どういう方々がお住みになっているかということについての調査は膨大にございます。それを皆さんに前回もお送りしているはずなんですが、そういうのを見てきていただいてということと。

(団体推薦委員) 見ているんですけど。

(会長) 今回、調査を緻密にするということでも、調査というのはいくらやっても、実態は全部出てくることはあり得ません。ですから私たちは、1つの調査で何か新しい知見が1つ出てくれば、それはすごくいいんですけども、調査をしなければ実態が分からないという前提でここは議論を進めていません。

皆さんは実際に子育てをしていて、そして実際に保育園に預けていて、そして子育てをしながら困っている方がたくさんいて、そういう人たちが自分たちの意見を出し合いながら、こういうふうにしたらどうかということを議論するために集まっていたらいいんです。すべて調査しなければ実態が分からない、マーケティングをしなければ分からないというような前提では集まっていたらいいんです。そこをはっきりしてください。

(団体推薦委員) 私は、昨日まで出張してあまり目を通せなかったんですけども、今日あらためて、区の方から送られてきました調査報告書がありますね。それを見ながら、前回渡されていますハートプランですか、これにも目を通したんです。そうすると、文京区の現状の課題というのは、かなり具体的に調査結果が出ています。ですからこれを読んでみて、これに何が不足なのかということを具体的に出さないと、調査をやるべきだ、だけでは、この委員会は進まな

いと思います。ですから、この調査結果を読んでいただいて、何が不足している、何が新たに我々がビジョンをつくるために必要な調査か、それを具体的に提案し合った方がいいと思います。

(副会長) よろしいですか、恐れ入ります。調査のことに關しては、今おっしゃられた通り、国の審議会であればそれでいいと、そういう部分もあるかと思うんですが、少なくともここにいらっしゃる皆さんは国の審議会とは違って、文京区にお住まいで、文京区で子育てをし、文京区でお仕事をなさっているという部分で、しかもその代表の方が来られているという流れの中で、皆さん一定の知見とか体験をお持ちなので、時間が限られているというのは非常に残念なんですけれども、ここでこれまでの経験や知見、そしてさまざまな市民団体が行っている調査もありますし、そういったことをうまく照らし合わせながら、ご自身の体験からどんどん提案を出していただいて、その提案に沿って、それが正しいのかどうかというのを、具体的に聞き取り調査を並行して進めながら、やっぱり思っていたのと違ったねとか、そういうことをまた後半。つまり、取り組みはもうできるだけ今までの蓄積の中から出していただいて、それを調査と走らせながら、調査結果で聞き取ったけれども、自分たちの思いとは実は違ったというところ、間違っていた、もっとこういうところが必要だというのを後半、それで提案に整合性を持たせていくというか、より豊かにしていくというスケジュールの立て方と、調査の活かし方というものではないかかと思ひます。

(団体推薦委員) 今おうかがいしまして、ちょっと議論が必ずしもかみ合っていないのかなという印象を持ちました。それぞれおっしゃっていることは、それぞれの局面をとらえれば正しいことをおっしゃっていると思うんですけど、今明らかなことは、1つは時間、日程に限りがある。それは事実でしょう。でもだからといって、いきなり抽象的な項目について議論をするというのは抵抗感があるということもまた事実です。ですので、どうやれば限られた時間と資源の中で建設的に議論できるかをまず考えたい。

(会長) ちょっとお待ちください。誤解されているようなので。今日はこの中身を議論するのではないんです。つまり、例えば交通ということはどういうことを盛れということを議論するのではないんです。こういう項目でいいかどうかということを議論していただきたいんです。

(団体推薦委員) そんなことは一言もまだ申し上げていません。

(会長) さっきそういうふうにおっしゃったから、今言っているんです。

(団体推薦委員) そう言いましたでしょうか。

(会長) はい、言っております。抽象的にこの中身を議論するということは抵抗があるとおっしゃいましたでしょう。

(団体推薦委員) ですから、項目の立て方自体について、これではあまりに抽象的過ぎるのではないかと。

(会長) だから、その項目の立て方を、それでいいかの議論をしていただきたいというのが今日のテーマだと提案しているわけです。

(団体推薦委員) ですから、そこを申し上げようとしているところで、会長のおっしゃっている通りに今進めているので、ちょっと誤解があると思うんですけども。

この項目の立て方があまりに抽象的であるというふうにお受け止めになる方がいらっしゃるんじゃないですかと、僕は申し上げたんです。

(会長) その項目の立て方について議論をしていただきたいということを、僕は今日、申し上げているわけです。

(団体推薦委員) ですから、今から申し上げます。その前振りを申し上げただけですので、そ

こでいくら絡まれても。

(会長) あくまでも項目の立て方です、今日は。

(団体推薦委員) ですから、この項目の立て方では抽象的のようにお感じになった方がいらっしやるので、項目の立て方について今から申し上げようと思っっているところなんです、いけないでしょうか。

(会長) いいですよ。

(団体推薦委員) それでは、申し上げたいことは、まず今の議論に見られるように議論が全然かみ合っていないんです。先ほどのご発言は私もごもつともだと思っます。やはりある程度のニーズ把握をしてから、アンケート調査の結果を踏まえて項目について考えていく。そういう意味で、項目の立て方がまた時期尚早ではないか。

それから、すでにこれまでも調査をしているから、これまでの調査を一回みんなよく読んでみて、足りない項目は何かについて実態把握をして、それを考えてみてはどうかというご意見もごもつともです。

ですので、まず事務局にお願いしたいと思っますのは、大量のファイルをいただいたんですが、実は、調査されていますとおっしゃっていますけれども、個票からのまとめ方が一定のまとめ方をしていませんので、ある局面を取ったらこういう人が多いというのは分かるんですけども、じゃあ本当にその方が、この政策のこの部分とこの項目とどちらを本当に好まれているか。あるいは、どの地域にどういふニーズが多いのかというのが残念ながら分からないんです。5地域か何かに分けていらっしやいますけれども、5地域に分けたクロス集計をしている項目が非常に少ないです。

ですので、新たに議論をするときに1つ出てきた非常に具体的な提案というのは、この調査があるのであれば、これの個票ベースのデータが残っているはずですから、それをアクセスなりエクセルなりに落としていただいて、もちろんプライバシーにかかわることは全部、名前や何かはつぶして、いろいろなクロス集計ができる形のインフラストラクチャーとして提供していただけないでしょうか。それが1つ具体的な、建設的な提案です。

それから2番目に、それにかかわることですけれども、やはり欠けているなと思っるのは、人口のコーホートがどういふふうに変化しているかということは、データは取れないんです。ですので、住民基本台帳などから、他の部で、例えば福祉の計画、特に高齢者福祉の計画を立てられる場合には、年齢ごとの集計をなさっていると思っんです。それを一定の地域割で出すことをご検討いただけないだろうかというのが、中の検討会で出てきた話題です。

それで、少し議論策定の指針について、保護者の1人から非常にいいご意見をいただいていますので、ご説明申し上げたいと思っます。こういうことを踏まえて、項目の立て方がこれでいいか、あるいは項目の立て方に沿った事務局提案のこの作業手順でいいかどうかについて、議論をしていただければと思っます。

まず第1に、長期的な視野が必要なのではないかということでございます。皆さんのお子さんが大人になって子育てをするときに、文京区に住みたいと思っような環境はいかにあるべきか。そういう長期的な観点を持つということでございます。

それから2番目、能動的姿勢。問題が起こってから場当たりに後手後手で対処するのではなくて、いろいろな社会情勢の変化を見越して構想を描き、そのために戦略的な布石を実施していく必要が十分にある。

3番目に、コミットメント。第1回の委員会では、区長から夢を語ってほしいとのご発言をい

ただいたんですけれども、絵に描いた餅や役所の作文では困りますので、やるとなったら何が何でもやるというコミットメントが必要であると。

それから3に関係しますけれども、検証可能性。単に言ってみただけではなくて、本当に実効したかどうかを後で検証できる。実効されないビジョンや計画はまったく意味がありません。何がどこまで実効されているかどうかを常にチェックできる必要があります。失敗したら軌道修正をかけるということだと思えます。

申し遅れましたけれども、この資料は、一番下にお名前が書いてありますが、今日傍聴席にお見えでいらっしゃるけれども、その方がお作りになられたものです。

最後、リーダーシップ。これは、この場にいる全員に共通のものだと思いますけれども、全国の模範となるようなビジョンをつくりたいということでございます。民営化の話も書かれていますが、やはり文京区は全国に対してあるべき姿を示す、そういうリーダーシップを発揮するという動きをめざすべきだ、というご意見をいただきました。

こうした考え方でこの作業シート、あるいは項目についてあらためて私なりに見させていただいたときに、1つ気が付きましたのは、むしろこの作業シートの使い方の議論になると思うんです。この作業シートには柱ごとに既に項目をいくつかイタリックで入れていただいておりますが、それ以外は、区長さんから前回説明があった検討課題についてを、非常に素直に落とし込んだ形になっていきますので、付加される項目はあるかもしれませんが、項目の立て方自体について大きな議論が出るわけでは必ずしもないと思えます。むしろ作業シートの使い方が問題でありして、ブレークダウンをどんどんしていくという作業にいったいこの後どのくらいの時間を使うか。つまり、こういう項目ならこういうことをやった方がいいじゃないかというアイデア募集、あるいはグループインタビューも含めたニーズ把握みたいなことをした場合に、この4つの項目に振り分けられるんですけど、あるいは、その中のさらに再分類ができるかもしれません。そうしたことに、いったいこの委員会はこのくらいの時間を使うか。

その上で、まさに実現可能性あるいは政策ですのでプライオリティを付けなければいけません。それが大事なところなんです。ここは学術研究と大きく違うところでありまして、私も科学研究費などをいただく機会もあったんですけれども、やはりその場合はある種のR&Dでございまして、いいことをやってみて、まさに1つか2つでも成果が出たらそれでいいという気構えで進めていくことになります。しかしながら、政策を実際につくる、あるいは政策のビジョンをつくるというプロセスになりますと大きく違ってきますから、実証可能性をどう決定するかということになると思えます。

やはり、これを最初に拝見したときに、本当に国の審議会の検討項目のように僕自身も感じまして、なるほどなと思えました。文京区ならではの要素がどこに入っていくのか、項目自体に入っているものではないと思えます。この項目を具体化する中で、文京区が持っている資源といったものが反映されてくることになると思えます。そうした観点を忘れないようにしないといけない。つまり、長くなって恐縮ですけれども、項目自体の立て方について、ほかの方々からいろいろご意見があると思いますが、私は最初に、使い方、使用方法について提案を申し上げようと思えます。以上です。

(会長) すみません、最後の使用方法のご提案というのは何がご提案ですか。

(団体推薦委員) こういう作業シートを使う場合に、非常に素直な使い方というのは、このそれぞれの項目を埋めていくこと、あるいは具体化をしていくことになります。こういうアイデアがあるんじゃないか、ああいうアイデアもあるんじゃないかということで。すみません、少

しだけ自分の仕事の説明をさせていただくと、私たちは政策をつくることを生業にしているものですから、そういう作業を必ず最初に行います。新しい政策をつくる時に、みんなで夢を書こうと、まさに夢を出し合います。それをば一と並べます。それと同時進行的にやることというのは、まさにこの委員会もそうなると思いますけど、実態把握。我々が持っているリソースは何か、あるいは日本としてアメリカに比べてどこが劣っていて、どこが追いつかなきゃいけないのか。他方で、日本の持っている法制度などの限界も考えたら、何が本当にこの1年でできるのか、3年でできるか。

特に文京区の場合ですと、国の制度がある。しかも、都の制度の方向性も必ずしも見えない中で、何かをしなきゃいけない。それから前回も申し上げましたけれども、汐見先生も非常に親しいご友人であるかと思うんですが、そういう方々の書かれたご本を拝見しても、現在の認定こども園の制度についてはいろいろ議論があるところです。そうしたものをどのようにクリアしていけばいいか、そこがまさに知恵の出どころでありまして、ビジョンをつくるときには、だいたいそのぐらいの議論をした上で、ビジョンづくりに入ります。

我々の職場で、もし実態はどうなっているか分かりませんと言おうものなら、それはその瞬間に、もし私が課長でそういうことを言おうものなら、もう局長室立入禁止になると思いますので、さっき確認して幸いだったのは、この委員会はまず事実なしに議論するというのではなくて、すでに大量のものがあるので、その中で活用できないかという方針であると理解していますので、戻りますけど、すでにある資料を活用していきたい。また、もっと活用できるように、個票レベルで整理して出していただきたいと思います。確かに大量のアンケートを取ったり、実態調査をする時間はないでしょうから、それを具体的な提案として申し上げます。

もう1つは、人口動態について分析できる方法はないか、区の手持ちの資料でないのか。それについては、またご回答いただければと思います。

(会長) 分かりました。私の言い方が誤解を与えたかも分かりませんが、今おっしゃったことと私の言ったことと何も変わらないので、何を提案されたかちょっとよく分からなかったものですから。

要するに、今日やっていただきたい作業は、いわば、本当は時間があれば、例えばKJ法のような形で、例えばこういうものを実現したらどうかということを書き書いていただいて、それを貼っていただいて、今度は分類していくとか、同じようなものを集めていって、カテゴリーとして分けていくとか、そういう作業をしたいわけですが、それが、そういう形でやるという時間はたぶんあまりないので、ある程度前回の議論を踏まえた上で、こういうふうな形になるのではないかとということで提案させていただきました。もちろんこれでやれということじゃないです。こういう形でやるということでもいいのかということですね。それを出していただきたいということを、先ほどお願いしたわけです。

そのときに、さまざまな、なぜそういう要望が出るのかということについてのご意見だとか、それはたぶん実態を反映したご意見が出てくるわけですから、そういう議論を先行させたいと申し上げたんですが、それじゃあまずいわけですか。

(団体推薦委員) それはまた全然、私が申し上げたことに対するご質問としてであると、どうお答えしていいか。そういうことは一言も申し上げていませんので。

(会長) だから、そういうふうに申し上げたことに対して違うとおっしゃったので、何が違うのか聞いていたんですが。

(団体推薦委員) 私は、今のご質問の趣旨が分からないので回答は控えさせていただきます。

(会長) だから、こういうふうな分け方とか、項目の立て方でいいですかという、そういうことについて今日は議論していただきたいというふうに先ほど申し上げたわけですね。

(団体推薦委員) 議論が混乱しているので、すみません。

(団体推薦委員) 汐見先生がおっしゃったのは、まず枠組みを提示して、この中身を深めていきましようということで、最初の骨組みを示していただいたということだけだと思います。そこはもう、あまりそれに対してとやかく言っていないと思うので…。それで、これから中身をいろいろ論じていく中で、またこういう枝が出てきてもいいんじゃないかということですね。

(会長) それは当然です。

(団体推薦委員) そこで柔軟に対応すればいい。最初はそれでよろしいんじゃないでしょうか。

(団体推薦委員) すみません、ちょっと視点が私たち違うと思うんですね。もちろん保育園と先生のところもそうですけれども、私たちは支える側なんですね。常に地域で支援をしているんですね、現実には。民生委員という立場だと、サロンとってお子様も0歳児とかをお預かりして、お母様も支え、どうしたらいいかという提案をしてあげているわけですね。

その中につかっているものだから、言っていることがたぶん違っていると思うんですね。その辺で食い違いがあると思うので、皆さんでいい方法を、その中間の立場でいろいろなものを出して、この視点に沿って出していけばいいんじゃないかと思うんですね。そこで現実には起きていることが、こういうことがあるんですよというのを私たちは言えると思うので、それを見本にと、保育園でもこういうことがあるんですよ、支援がだいぶ変わってきたんですよというところを聞いていただいて、それでそれにプラスしていくというところ。ここの項目の中にも、公共のところというところに、図書館とか児童館、あと保健所でも支援をしているということなんですね。

そんなところから少しずつ提案をしていって、この骨組みをつくっていけばいいのではないかと思うんですね。そういうふうに思っております。

(公募委員) まさにおっしゃってくださった通りで、このシートに沿って具体的にどんどん発言をしていく時間を私たちは必要としているわけです。ぜひとも具体的に交通、例えばの例を申し上げますけれども、ベビーカーの前で堂々とタバコを吸っている人たちがいて、子どもにいい社会があるんですか。ならば昼間の時間はノースモーキングタイムにするとか、そういう具体的なことを私たちは求めているのであって、このワークシートがどうのこうのとか、そういったことではなくて、これに沿ってどんどん皆さんのいろいろな立場からの意見を言っていただきたいと思って来ています。

議論をするための場ではなくて、ビジョンを語るための場所ですので、ぜひ私たちの貴重な時間を大切にしていきたいと思っております。

(公募委員) この1、2、3、4という、こういう立て方そのものも、これで足りるのかどうか。

(会長) そういうことをご意見をいただきたいんです。

(公募委員) それと、やはりこういうことを決めていくためには、参考のためにこういう資料がほしい、簡単な調査をしてほしいという、そんな大したことじゃないですけど、そういう要望も取り上げていただきたいと思っております。

私は自分の子どもや周辺のことについてはある程度知っていても、もうちょっと広い範囲のものがほしいこともありますから、そういうことも議論していただきたいと思っております。

(会長) そういうご意見をどんどん出してください。そして、必要なデータ等については、前回もちょっとそういうことがあったので送っていただいたんですが、もうすでにあるリソースを最大限に活用しないと、今からいろいろな調査ってちょっと不可能なところがありますので。

(公募委員) 私たちには大変なことでも、役所で調査していただくのがそれほどでもないと思うようなこともあったりします。例えば 23 区の中で、ほかの区でやっているいろいろな子育て支援の政策がありますね。そんなのは出向いて行って調査しなくても、その区が出している広報とか冊子などを見ればいろいろ分かりますから、そういうのを集めていただくとか。

それから、よその区ではどの程度の予算を使っているのかとか、そういうことはあまり時間もかからず、大した量じゃないと思いますので、そういうものも参考資料としてほしいと思います。

(会長) こういうデータを出してほしいというご要望がありましたら、その都度どんどん出してください。それはお願いします。

(公募委員) まさに今おっしゃったところなんですけれども、分厚い資料というか、こういうことを調べていただきたい、アンケートしていただきたいというものをお配りしてしまったんですけれども、その中で、他区ですごくいい試みをしていらっしゃるところがたくさんあるんですね。私がすごいと思うのは、特に新宿区は 24 時間の保育園があったりとか、皆さんのモチベーションも、児童館にいる人のモチベーションもすごいですし、他区のことも調べて、ほかの区でできるんだからきっと文京区でもできるはずでしょうし。そういうこともぜひ調べていただきたいと思います。ぜひこちらの方もお目通しをお願いします。

(会長) ちょっといいですか。例えば新宿区の場合ですけれども、私は次世代育成のプランづくりも実は新宿区でもやっていたんです。そのときに、例えば①の地域での安全ということで、じゃあ交通という項目が立ちますね。そうすると、ここの中身をどう書くのかということについて、みんな委員で分担するわけですね。

委員だけじゃなくて、その委員が知っている人たちの協力を得てやるんですけど、そういうときにもう 1 回実態を調べに行こうとか、学校はどう考えているんだということを聞き取りに行こうとか、そうやって調べながら中身を埋めていったわけです。だから、分かっている実態から出発しながら、もっとデータが必要だねと思ったらそれを調べながら行くと、そういう形でフィードバックしながらつくっていったものです。ですから、かなり実態に迫っているようなものがある程度できたと思います。

私がちょっと期待しているのは、今回も皆さんに、項目が決まれば、その中身は誰か役人が書くんじゃないで、全員で書いていきたいと考えているわけです。そのときに、それぞれの人の思いだとか実態をもっと貪欲につかんでいくという、そういうことをやりながら。

だから、アンケート調査とかいろいろなものを並行してやりますけれども、そういう埋める作業の中で実態をもっとどんどんつかんでいくという作業を並行してやっていただきたいと、そういうことも実はあるわけです。

(団体推薦委員) 今の基本的に賛成です。だから、我々でできる調査もあるので、それもここにどんどん持ってこないで、時間が本当に足りないの。だから、自分が本当にいいと思うものを資料としてどんどん出していただければ、その分時間の節約にもなると思います。

僕が前回、ここで言うと、イタリックになっている生活のリズム、コミュニケーション、電子メディアとか、その辺のことを提起させていただいて、これについては具体的にアンケート調査とかをやりたいと思います。つまり、送っていただいた文京区の調査に関してなんですが、基本的にはニーズ調査だと思ったんです。それに対して、実際に子どもがどういう環境で生活しているのか、実態が必ずしもここでは明らかでなかったかなと思って、そこがちょっと僕は知りたい。つまり、生活のリズムはどうなっているのか、コミュニケーションとか電子メディアとか食育とか、これが各家庭でどんなふうになっているのか、その辺をちょっと調べてもらえれば

と思います。

それで、具体的に汐見先生もかかわっていらっしゃるいろいろな首都圏の調査とか、あるいは他の都道府県の調査があって、それを今日は僕、一応サンプルでまとめてきたんですが、もしちょっとだけ時間をいただければ、ここを少し深めて、それで調査でこういうことをやっていただきたいという提案をしたいと思ったんですが、もし時間がいただけましたら、いつかの段階で。

(会長) ちょっと申し訳ないですけど、調査そのものについてはまとめて議論をする時間を次に取っていますので、そこでお願いできますか。今は、なぜこれを急いでいるかといいますと、まず少なくとも、例えば今、4つの柱でやるということを提案いたしましたね。これは一応作業仮説なんですけれども、もう決めてしまわないと進みませんので、一応こういう4つの柱でスタートしていただきたいという提案なんです。それに対して、4つじゃだめだ、5の方がいいというようなことがありましたら、どうぞご意見をいただきたいんですけども。

もしこれでいこうということになれば、それぞれの柱のところに皆さんが分担して入っていただきたいということを次にご提案しようと思っていたわけです。それで、2つの柱に入ってくださっても結構なんですけれども、それぞれのところでその項目をもっと、つまり全体で議論をしていますと、それだけでもたぶん時間が足りなくなると思いますので、例えば①の柱のところだったら、もっとこういう項目を入れるべきじゃないかとか、こういう柱にすべきじゃないかというところを集中して議論をしていく。小グループをつくっていただいたり何かしながら進めたいと思ったわけです。

そのために、前提としてこういう大きな分け方をまずしたんですけども、それがどうか。不都合がないかどうかというところを、まずご意見をいただきたいわけです。

(しおみ保育園園長) 項目の件で、①の「保育所での安心・安全、豊かな育ちへの取組み」というところなんですけれども、文京区の平成17年度の公立の保育園の共通した保育目標ってあるんですね。それが「心身共に健やかな子ども」ということで、その中に4点柱がありまして、①から④の4点の柱がこの中に入っているんですけど、1つ欠けているものが「豊かな感性」という言葉なんです。

今、心の育ちというのをかなり重要視しないと、体は健康でも、やっぱり両方、心身ともに健やかな子どもというところが本当に大きな目標で、言い尽くされているなど私は思うんですけど。その心の育ちというか、豊かな感性と文京区の目標には入っていますが、そのような項目を1つ入れていただきたいなと思います。

たぶん楽しいとか、悲しいとか、人の気持ちが分かるとか、人とのコミュニケーションの中に入ってくるかと思いますが、絵本を読んでもらってそういう気持ちが育つとか、音楽を聴いたりとか、いろいろな場面でありますから、そのあたりの項目を1つ入れてほしいなと思います。

(会長) それは④の所にも関係してきますね。保育所がどういう機能を担っていくかという、機能強化。

(しおみ保育園園長) そうですね。

(会長) ありがとうございます。先ほどちょっとご発言いただいたんですけども、ちょっと気になっていて、だいたいいつも発言者が偏っているというか、議事録を読みますと発言している方と発言していない方ときれいに分かれてしまって申し訳ないなと思ったんですが、今日ぜひ全員に発言していただきたいんですけども。

先ほどの委員からの資料は、アンケートの項目という形になっていますが、実際は文京区で子

育てをしてみて、ぜひこんなものという中身の文章だと思って読ませていただいたんですが、ちょっとご説明いただけませんか。

(公募委員) 実際に今、私は2歳近くの子どもを育てていまして、本当に困ることが、もういらいらしていることがいくつかあるんです。文京区の中では、バリアフリーの、はいはいぐらいの子どもを安心して遊ばせる場所がすごく少ないんですね。唯一、シビックセンターの3階にあるんですけども、みんなそこに集中するから、午後にはもういっぱい、またこれはみんなのストレスになって、いらいらしながら帰ってきてしまう感じなんです。

私と私の周りのママさんたちは、千代田区の児童館ですとか、新宿区の児童館ですとか、それから遠くは豊島区の児童館まで行ってお世話になっています。そういった他区のいいところをもっともっと。私なぜこういう項目を出したかという、こちらのアンケートについて皆さん膨大な資料だとおっしゃっているんですけども、私から見たら、緊急一時保育について何も聞かれていなくて、何が必要なのか、どうして使いづらいのか、何で使う人が決まっちゃっていて、ほかの人はどうなっているのかとか全然見えてこないんですね、データを見ても。データをかけて分析するという話も今あったと思うんですけども、それにしてもn数がとても小さくて、誤差がものすごく増えて、結局正確な数は出るのかなという気がします。

そういったこともありまして、とにかくこれじゃあ私は全然見えてきていないような気がしているんです。緊急一時に関してお話しさせていただきますと、やはり文京区のママさんは、緊急一時保育所があること自体もご存じない方もいらして、それから、緊急一時保育所の広告チラシの中に、2日前までが申し込みとなっているので、結局だめじゃないと、緊急には使えないと思って、全然アクセスをしようとか問い合わせをしようとか、そういったことをしようと思わない人もいますね。そういった方々の気持ちとかをもっと拾い上げて、もっと使いやすいものにしないといけない質もいっぱい出てくると思うんです。その辺がありまして、こういうふうに書き出してみました。

同じことの繰り返しになるんですけども、文京区のママさんたちに満足していますかとか、何が不満でしたかという聞き方ではなくて、千代田区では前日に、「もう疲れているから、先生、明日4時間預かってくれますか」「いいですよ、空いていますから」と、そんなことをやっている区が隣にありますけれども、あったらあなたも利用したいですかという、絶対皆さんものすごい数が出てくるんじゃないかと思うんです。やらないから、そんなことができないと思っているから、みんな反応するにも反応できないんじゃないかと思って、いろいろ聞いていただきたいと思った次第です。

(副会長) ちょっと教えていただきたいんですけども、アンケートの中身については、先ほど汐見先生の方から、次回具体的に詰めるということでスケジュールは提示されたかと思うんですが、この資料の中で非常に気になった文言があります。

緊急一時に関する質問項目の中であるんですけども、具体的に、ここで緊急一時に対して、急病には使えない、1カ月しか預かってくれない。そして、病気のときに診断書を作ってもらわないといけない。さらに、子どもを送り迎えするのが苦痛な状況のときにタクシー代、などということが書いてあるんですが、これは具体的に文京区のどういった部分にご不満というか、問題があると。ちょっと実態とお考えになっている改善策というか、少しお話しいただければと思うんですが。

(公募委員) タクシー代というのは、具体的に申し上げまして、私は体を壊したときは大抵1週間近く、さしがや保育園、以前は目白台の緊急一時保育所に毎日のように預けていたんですけ

れども、行きは夫が会社に行く途中までタクシーに乗って、目白台の最寄りの護国寺までのタクシー代が約1,000円。それから帰りは、私から家からタクシーを呼び、それで乗り付けて、それから引き取って帰って、約1,500円弱。それから実際の保育代ということで、結局は近くの、いわゆる高めのか、私立の保育園に預けるよりも割高になってしまうわけです。じゃあ電車で行けばというと、とてもとてもそんな体調ではなくて、そういった意味なんです。

じゃあ、それはもうあきらめないといけないことなのかというと、そうではなくて、例えば私の目の前には、水道保育園というのがあるんです。目の前にこんなに保育園があり、変な話ですけども、新宿区というのは、緊急一時保育は緊急なんだからということで、空きがなくても入れていただけるんです。1カ月が限度なんですけれども。もしそういう新宿区の制度が取り入れられたとしたら、そうしたら私は歩いて行けるわけなんです。

文京区に関しては3園しか今、緊急一時保育を行っていませんから、それも真ん中から上のあたり、北あたりに集中してしまっていて、南の方の方や西の方の方は、結局使いづらい、コスト高になっているというのが現状なんです。その辺の意見を実際にもう少し皆さんどう思っているのか、アンケートで拾えればと思って出しました。

(会長) 例えば盛り込んでいただきたいビジョンとしては、すべての保育園で緊急一時保育をとるか、そういう形になるわけですか。

(公募委員) おっしゃる通りです。

(会長) そういう要望をどんどん、実際に載せるかどうかについてはもう1回議論しますけれども、どんどん出していただいた方が。そういう項目を立てていただきたいということですね、保育園のところには。分かりました。

(水道保育園園長) まずこのシートを見まして、実際的に現場が抱えているこういう問題はどこに入るんだろうと、まず具体的なことがちょっと頭に浮かんだんですね。例えば、外国人の方の問題とかあるわけですね。言葉が通じないがために、保育園のいろいろなことが伝わりにくかったり、問題を抱えたときに保育園の中でも十分英語ができなくて、お母さんの訴えたいことが分かりにくいとか、いろいろな問題は例えばどう解決の中に入るんだろうとか。

それから①の「子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障」という中で、保育所での安心・安全はあるんですが、区内でもいろいろなところがかかわっていますよね、子どもの育ちに。例えば先ほどおっしゃっていた子育てひろばもあれば、保育ママさんもいれば、いろいろなところがかかわっているわけですが、そういうところを広くネットワーク化しながら考えていくにはどう区分けするのかは、その下にある「子育て・親育ちの支援」の中にも入っていますし、④の「「保育」機能の中核としての保育所」の中にも入っていますが、そういったあらゆるところの人たちがどうかかわるのか。

それから、ボランティアも含めた全体の中で文京区の子どもをどう育てるのかというような項目はどういう部分に入るのかなとか。虐待の問題もあるし、障害児童の問題もあると思うんですが、そういういろいろなことが交差して、こういうことというのはどういうところでどう話し合っているのかということも非常に分けにくいと感じます。

(会長) それをどんどんご提案いただきたいわけです。今の外国人に対する丁寧な、親切的な保育サポートという、それが保育所でどの程度そういうことができるかということを含めて、例えば新しい保育ニーズへの積極的な対応ということで、その中に今言ったことだけじゃなくて、虐待、病児保育その他がいっぱい入ってくると思います。そういう項目を立てるべきだというふうにご意見を出していただければいいわけです。

(水道保育園園長) もう1点なんです、昨年、実は東京都公立保育園研究会という会があるのですが、そこで文京区が発表させていただいたのが、「なぜ疲れているの、子どもたち」という内容なんです。子どもたちがとても疲れていると。すぐくごろごろしていたり、訳もなく手が出たり、そういうことはどこから原因がきているんだろうというのを調べたことがあったんですね。確かに生活リズムやいろいろなこともあるんですが、子どもたちは非常に人との関係に疲れを感じているというような結果が調べた中で出たんです。

そういうことも含めて、疲れしない保育園の生活、また家庭でも、日中が豊かに過ごせるような生活はどうだろうということを考えたときに、先ほど来言われている生活リズムの問題とか、テレビの問題だとか、どういうことがかかわってくるのかなというところで、私としてはちょっと興味深いところがあります。

それから、文京区の中のお医者さんのグループの中でもテレビを消して絵本を読ませようというグループがありまして、実はうちの園医さんも、健康診断に来るたびに、病気を診るよりも病気になる子どもたちの健康をつくるのが大事だということで、子どもたちにいい絵本をと、いろいろ子どもに本を読んでくださったりしているんです。文京区内だけではないと思いますが、お医者さんのグループでもそういうグループもありますので、本当にいろいろなところと連携を取りながら子どもたちの生活を考えていけたらいいなと思います。

(会長) 今のご意見は、例えば子どものかかわる力を育てるという、もう少しテーマ化してもいい。そういうのを、例えば①だとかそういうところの項目の中に盛ったらどうかというご意見とうかがってよろしいですか。

(団体推薦委員) これをお配りしようと思うんですけども、ご覧いただければと思います。すべてを説明していると時間がなくなってしまうので、目を通していただきたいと思うんですが、第1回目が終わりましたから、我々やっぱり保護者のニーズを調べるべきだろうということでいろいろと聞いてまいりました。そういうことが結構入っています。

先ほどのことなんですけれども、別に議論のための議論をしに来たわけではなくて、私の理解としては、汐見先生、取りあえず漠然としたものを先生が出しましたので、これから議論をして、どんどん上げていって、そこから柱を再構築していくという考えでよろしいですか。

(会長) それで結構です。

(団体推薦委員) 分かりました。まだまだ時間が足りなかったので一部の意見なんです、いろいろなニーズがありますので、ぜひとも目を通していただければと思います。

(会長) せっかくやったので、特にこういうところを注目していただきたいということはないですか。

(団体推薦委員) やっぱり時間がない中で、一生懸命メールで書いてくださる方も、子どもが寝てから午前0時過ぎ、1時過ぎにメールでくれたりとか、朝6時ごろくれたりという状況の中で書いてくださっていることですので、どれも受け止めていただきたいというふうに親としては思います。

(会長) 私は、実はこういうのを調査したかったんです、今回は。こういうのがすでに出てきて、これはぜひぶんこれから活用させていただけるのではないかと思います。ちょっと時間がないので残念なんですけど、ぜひこれに目を通していただきたいと思います。こういう生の声が一番大事なんだと思います。

(団体推薦委員) 汐見先生、やっぱり僕ら保護者、私も0歳と5歳の子どもがいて、すごく気になる言葉がありました。時間がないのでとか、やっぱり3月に間に合わせなきゃいけない

という気持ちがちょっと、保護者としては非常に辛いというか。いいものをやっぱりつくりたいと思って来ているわけです。

(会長) 分かっています。

(団体推薦委員) そこで、そういう言葉はやっぱりなるべく避けて、いろいろな方の意見を聞いていってやっていくという姿勢だけはお願いしたいと思います。

(会長) それはよく分かっているんですが、私の頭の中にはここまで持っていけないといいものがないというのがあって、それで今日かなり、ある意味では強引だと思います、この4つの柱ということ提案するのは。だから抵抗があることは分かっていたんですけども、ちょっとそこをくんでいただきたいというのがお願いだったわけです。すみません。

(団体推薦委員) 私も議論のための議論をするのではなくて、たぶん皆さんが不安に思っているのは、これからどれだけの時間が、どういうプロセスで進んでいくのかということ、ご担当の方からご提示いただいていないことだと思います。

ですからアンケートの、我々が知りたいことについて本当に出してくれるんだろうとか、本当でしたら一面パネルを貼って、みんなでカテゴリー分けしたらどうか、先生のおっしゃる通りだと思います。そういう場を具体的にどういうふうにつくっていくのか、それを今、議論すべきだと思います。たぶん中身を今、これもしたい、これもしたいというのをここで話しても時間がなくなっちゃう。

それで1つ提案なんですけれども、例えばブログとかを利用して、各項目についてスレッドを立てて。スレッドというのは、専門用語で申し訳ございません。これについてどういう政策とか、どういうふうにしたら具体的にいいものができると思いますかということ、文京区民、場合によっては文京区以外の方も、こんなものがあるよといったことを吸い上げる仕組みをつくるというのがまず1点。

それと、たぶん我々委員には時間の制限もあるし、パワーも能力も制限があります。今こちらに来ていただいている方々、あと、今日は来ていないけれども意識の高い方がものすごくいっぱいいます。これは今まで3年間活動してみて、この間もシンポジウムに行ってみて非常によく分かったんです。先生がたぶん思い描いているものがあると思うんですね。ですから、その具体的な、こういうふうな手法を使ってみたらどうかということ、こんな方法があるという手続きのこと、内容についてじゃなくてやり方について議論をしませんか。

(会長) ありがとうございます。先ほどちょっと申し上げましたけれども、この4つ、何でこうやってある程度整理してこっちから出してしまったかと申しますと、この柱だけじゃ足りないという強力な意見がありましたら、またもう1つ付け加えてもいいし、この柱はいらないという意見がございましたら消してもいいと思うんですが、ともかく一応この柱でスタートしたいと。

私は、全員がわいわい言いながらつくっていくスタイルを考えていまして、できたらこの4つの柱のどこか最低1つのところに、皆さんが分担してグルーピングをして入っていただいて、そのグループの中でもっとこういうのを入れたらどうかとか、こういう柱にしたらどうかということ、どこかで練り合うような、そういう進め方ができないか。つまり、全体が集まってこうやるというその前に、グループ作業のようなものをできないか。

そして、そのグループごとに例えば、グループごとでなくてもいいんですけども、前回もちょっと申し上げましたけれども、皆さん少なくともメールは使える方はメールでやって、今、ブログという提案がございましたけども、何か管理をしていくという。そういうふうな形で、できるだけ広範囲の意見をまとめながら、集めながら、しかし作業が進むようにグルーピング化する

という、そういうことをしたらどうかという提案をしようと思ったわけです。そういうやり方はちょっとまずいということがあれば、当然また別の意見を出していただきたいんですが、そういうふうにしなないと機動性のある進め方ができないんじゃないかと思っております。どうでしょうか。

(団体推薦委員) 賛成です。ただ、私ども実はシンポジウムをやるにしても、あり方検討協議会で保育のあり方を議論してきたときも、ワーキンググループ形式で各テーマごとにかなり掘り下げて、あと来るもの拒まずでいろいろな人から意見をとったんですね。そのときのことを考えますと、かなり膨大な作業になります。しかも、ネットにアクセスできない人もいますし、できるだけ皆さんの意見を吸い上げたいということですが、やはり先ほどのご意見のように、まず時間性ありきという話だと非常にづらいというのが、私の正直な気持ちです。

ただ、もちろんこれをめざすと、めざしてやらなきゃいけないというのは皆さん持つんですよ。持つんですけれども、つらいと。

(副会長) ちょっと話の方向性は違うことをうかがうかもしれないんですけれども、できる限り皆さんで意見を調整しながらつくっていくという方向性で私もいいのではないかなと思うんですが、ただ、時間的な問題はやっぱりすごく大きいことではないかなと思うんです。かなりわいわい掘り下げてやっていくといったときに、実はやっぱりね、子育て中の人ってやっぱり 24 時間機動的には、皆さんご存じだと思うんですけれども、できない方が多いんですよ。

だから、その部分では非常に、時間を切って、もっと話したい、もっとやればもっといいものができるというのはあるんだけど、やっぱりスケジュール管理みたいなところで、ここまでのだからがんばろうよというのがない。在宅でずっと子育てしている方とか、働いている人間もそうですよね。ちょっと気持ち的に乗りにくいというところがあるので、私も本当に議論、こんなふういろいろな方の意見が上がってきて、具体的な項目がどんどんこの作業シートの中に埋まって行って、それを検証しながらというのは、まさに文京区的なつくり方として価値があると思うんです。それをやっていきたいと思うんですが、この委員会の委員も子育て中の方がほとんどですし、ちょっと一定のスケジュールを切るという、そここのところはお互いの共通理解というか、ボトムラインということで設定してはどうかと思うんですが。

(団体推薦委員) 矛盾することを言うてしまうかもしれないけれども、今、副会長さんのお話で、もっといいものができるかもしれないけれども時間的な問題がある。おっしゃる通りですし、作業効率ということもあるんですけれども、それこそ東京都だけではなく日本に誇れるビジョンをつくる。最高にいいものをつくる策定委員会がこの会だと最初の段階でうかがっておりますので、もちろんすごく時間効率との兼ね合いで難しいとは思いますが、よりよいものというか最高にいいものをつくるためには、ちょっと時間が必要なのかなという気は。もちろん、区切りをつけてやっていかないと作業が進まないということも分かるんですけれども。

あと、先ほどの分科会という、要するに各項目で分けるということも作業効率ということですがよく分かるんですけれども、せっかくいろいろな分野の、またそれぞれの知識のある方が集まっているのに、それをわざわざ小さくしてしまって、意見を小さくしてしまうというのはとてももったいないと感じております。

(団体推薦委員) 手短かに言います。萩原さんのおっしゃる時間の区切り、精神論は非常に僕は分かります。ただ、汐見先生などもたくさん研究会、いろいろな委員会をやっていらっしゃいますよね。そうしますと、例えば国に誇るとか、文京区が誇れる、すごく素晴らしい保育ビジョンをつくるためには足りないものが結構あるということは認識していると思います。

そういうことを積み上げていくと、半年というのは。精神論は分かるんですけども、非常に厳しいので。もうちょっと、そういう題材がいろいろ出てから時間というのがもっと見えてくると思うんですけど。時間ありきなもので、ちょっとそこに抵抗があるということをしり上げたいんです。抵抗があるというか、できないんじゃないかという。

(公募委員) お役所で継続的なものは無理かと思えますけど、そんなに時間がないのであれば、取りあえず第1次ということにして、第2次が出るかどうかは拘束しないことにしてやるという方法も考えられます。

それから細かいことですが、この中に地域とか地域社会というのがすごく出てくるんですが、よく使われる言葉ですけども、みんなが同じ中身を考えてしゃべっているんじゃないくて、すごくあいまいな言葉だと思うんですね。今、子どものことを考えるときに、核家族化と地域社会崩壊が諸悪の根源であって、そういうふうに言ってしまうと何でもそれで説明がつくみたいに言っているのは不正確で、私は納得しがたいし、反対でもあります。

核家族化というのは女にとってはすごく素晴らしいことですし(笑)、地域社会に対して懐古趣味があっても、それが既に崩壊してしまっているのであれば、そういうものに代わる、もっと新しいものに対する展望とか、そういうものを取り入れて、ただ訳も分からず地域、地域というふうにあいまいに言わないで、もっと具体的な言葉で言った方がいいと思います。もう女の人は、地域社会とか核家族とかいうあいまいな言葉はうんざりしているんです(笑)。

(会長) 今ちょっと議論していただいたところは、今の4つの柱だけじゃなくて、最初の資料第7号の1ページ目も一応検討していただきたいところに入っています。ですから、先ほどもご説明いただいた、こういう理念を盛り込むべきだとか、あるいはこういう理念でやるべきだというのも、ぜひこの最初のところに活かしていきたいというふうには聞いていました。そういうことについても、こういう視点を大事にしるとか、こういう視点は検討しろということを出していただきたいと思います。

ただ、どこかの時点でそれは1回出てきたものをたたかないといけないと思いますが、あらかじめそういうご意見をどんどん出していただければ助かります。

(公募委員) 限られた時間の中でも、やはりある時期で、できる限りの議論された形は必要だと思います。その中で、やはり7回というスパンの中だけの議論ですとなかなか形になっていかないと思いますので、ここの中にいる方々が1日5分でも10分でも考える場を設け、継続的にやっていく。やれる方がやればいいと思いますし、そういう形をシステムとしてつくれば効果的と考えます。メールができないとか、ファックスがないとか、そういう環境的な問題もあるとは思いますが、やれる方がやれば少しはプラスになっていく。そこでの議論が中心でなく、あくまで付録として議論される場があればいいのかなと思います。

もう1つが、やはりビジョンをつくるのは大切ですが、実際、今何が問題なのかという、解決しなければならないプライオリティというのがあると思いますので、それを1つずつつぶしていくことによって、中長期的なビジョンが自然と形になっていくのではないかと思います。

(団体推薦委員) 実は今日、検討してきてくださいということが4つの項目を中心にあつたわけですが、私なりに慌てて1時間くらい前に一応自分で整理してきました。今日は出しませんが、やっぱり具体的に提示された問題のどこをどうしてほしいとか、私はこう考えているということを実際に出し合っていないと、なかなか入り口のところで議論していても進まないような気がします。

大事なのは、利用者の切実な要求という問題をきちんと分析する必要があると思います。それ

から区民の立場とか、そこをどうやって我々が考慮するかという視点も実は大事だと思います。

それからもう1つ大事なのは、私の考えでは、全体的に制度がくるくる、くるくる変わっているわけです。そういう中で、20年、30年もつようなビジョンは不可能だと思います。ですから私はやはり、中期的なビジョンじゃないけれども、ある程度年数的には、例えば5年から7年ということを意識して、その以内でどういう文京区としてのビジョンになっているか、あるいは具体的な政策になっているかということに入っていくと、非常にまとまりにくいと思います。

そういったことを考慮してお互いに作業に参加する、あるいは発言をする、具体的な提案をするというふうにしていかないと、やはり話はまとまっていかないと。そういった中期的な、これくらいのスパンということはある程度私はここで共通確認をしながら進まない、やっぱりお互いの気持ちの入れ方というか違いで、非常に話がすれ違ってしまうという感じがいたしますので、帰った後、私は自分でまとめているものをきちんと文書で出したいと思います。

(会長) それはお願いします。

(団体推薦委員) この間も自己紹介だけで、皆さんのご意見で時間がなくて終わってしまって、今日も本当に、ああ、立派な意見なんだな、こういう保育ビジョンというのは大切なんだなと思いつつながら勉強させていただいているのが本当に事実のところでございます。

先生、この辺がよく意見が出ていないとおっしゃるんですが(笑)。事実ここは皆さんのビジョン、要するに保育ということに関して、ちょうど私の孫が成人式を迎えます。早くひ孫ができないと保育ビジョンに夢中になれないかなと思って。私はこのビジョンに参加したというのは、本当に文京区が日本一、日本一ですかね、何かさっきおっしゃっていた(笑)。とにかく東京でもすごいビジョンじゃないと言われるものをつくりたい。その熱意があるんですが、第1回目に参加したときは一先生、何でも言ってよろしいでしょうか。

(会長) どうぞ。

(団体推薦委員) よろしいですか、ごめんなさいね、これはおばあさんの意見だと思って聞いてください。第1回目のときは、保育ビジョンって、ビジョンって夢じゃないかなと思いましたが。夢をつくるということに対して、そちら側の人ほとんどないよと。何か現実をもっと踏まえて、本当に現実を聞いてほしい。陳情団か、何か訴え上げに来ているのかなと。そこへ私が入っちゃっていいのかなというような気持ちで、本当にびっくりして、いやあ、子育てというのは大変だな。私のときはおばあさんもいたし、いろいろな人がいて、一生懸命近所にも頼んだり、保育園に行ける人はわずかでしたから。そんなようなところでうちの子どもを育てました。

いろいろなことを考えて、やはり私たちの年代は皆さんの熱意にまず驚きました。それを区と皆様方と、それから私たちみたいな、もう本当におじいさん、おばあさんの世代、簡単に言うと区民ですよ。一般の区民の人、それから保育ビジョンを一生懸命やっている現役の保育園に通わせている人、それから保育園を卒業したけど、やっぱり心配なんですかね、今でも保育園のことに携わって一生懸命やったださっているお父さんやお母さんがいらっしゃるわけですよ。

そういう人たちの意見を、今日はこのアンケートありがとうございます、私ね、今日帰りましたら、明日から実は下関なんです。でも夜はホテルへ帰りますから、一生懸命読みます。そして、一生懸命あなたたち若い人たちの言っていること。なぜこうやって一生懸命やるのか、なぜこんなに熱が出るのかということ、やっぱり区の方の答えに満足していない部分があるのかなということも思います。そうですよね。そして、私たちの言う意見をなるべく区に聞いてほしいという気持ちがあるんでしょう、そうでしょうか？

(団体推薦委員) そうです。

(団体推薦委員) その仲立ちが、おじいさんやおばあさんができるなら、やろうじゃありませんか。どうですか、汐見先生、そうじゃありませんか。

私、中間にいてね、ひ孫のことを考えると、文京区から引っ越したい。新宿区ですか、そこへ行こうかな、そこへ行った方がいいんじゃないのと、ひ孫のときは言ってあげようかな、なんて今思いました。24時間保育大賛成です。

それでね、みんなここへ集まった人は、汐見会長を先頭に1つのビジョンをつくり上げましょう。一生懸命つくり上げましょう。それには、意見を言うときは一生懸命言いましょう。そしてよく聞いて、リーダーがまとめてください。汐見先生、なるべく早くこれ分けてやりましょう。そうしないと、柱立てがいいの、悪いのじゃないんです。もう今おっしゃっていただいた意見をまとめて。時間がない、時間がないと言うと、何か私たちもあの世に行くのがどんどんどんどん近づいたような気になるんです。いや、75歳になってごらんない、分かりますよ(笑)。

ですから先生ね、その辺のことを上手にまとめていただいて、文京区らしい、文の京らしい。だって、よその区から見たら皆さん方立派で、程度が高いんです。でも、やっぱりうちで商売をしながら、保育園に通わせてあげられないうちの子どももいるということ、ぜひ忘れないでほしいの。保育園に行って、それから幼稚園に行ってという方は、やっぱりある程度幸せなんです。だけど、自営業で保育園に通わせてあげられない、仕事をしているところに本当に寝かしてあるという0歳児もいたり、いろいろなんですね。

ですから、そういう人たちにも何か光をあててあげる。だってそういう人たちが払っている税金で、やっぱり文京区の保育園は成り立っていると思っています。ですから、私たちだけの力じゃなくて、そういう多くの区民の人の力もあって、私たちがここで議論できるんですから、議論を大いに戦わせて、何とかおじいさん、おばあさんを上手に使ってください。以上です。

(会長) ありがとうございます。

(団体推薦委員) 1~2点提案を申し上げたいと思うんですけれども、まずこれまでの議論を振り返ってみますと、たくさんの意見をなるたけいっぱいここに集めようということについては、皆さん合意が得られたんじゃないかと思います。ですので、あとは方法なんです。

ちょっと今日は、議論が最初のうち少しかみ合わなかった原因は、やっぱり項目と、情報の集め方とか使い方というのが一番だと思うんです、内容と手続き、プロセス。そこはやっぱり、今日皆さんの合意が得られたらいいなと思います。

私がうかがっていた中で非常に参考になるなと思いましたのは、さきほどのご意見でして、それぞれ時間は限られています。ですが、1日5分から10分ぐらいどこかで時間をつくることはできるかもしれませんし、子育て中の親も可能だと思います。ちょっと運営は大変だと思いますが、何かブログのようなもの、あるいは掲示板のようなものをどこかで考えられないかというのは、事務局、あるいはコモン計画研究所の方にご検討いただければと思います。

それから、この場はいくらやっても2時間掛ける7回か8回なんです。だけど、意見を言う時間が取れないということによって、非常に大事な今後の進め方の議論がおろそかになってもいけないと思います。両方とも大事です。この場は、やっぱり進め方について議論をして、意見の集約は別途またいい方法をお互いに知恵を出し合ってやっていく。

それからその関連でなんですけど、さっき新宿区ですとか他区の先進的な事例があるじゃないのというお話がありました。そこは非常に大事な点だと思います。そういうことを調べないと、ちょっとこの作業シートに直ちに入りにくいんです。ここにある項目について、例えばある区ではこういう政策をつくっていて、こういう工夫をしているみたいなことを事例として知りたいと

思うんですけども、それは最後の1つとして非常に大事なことではないかと。

実は前回も同じようなことを提案させていただいたんですけど、ぜひとも皆さんがそれぞれいいと思える事例について、日本中というわけにいかないと思うんですけど、いくつか絞って、10か20ぐらい。それについては、どうやって実現しているのか、どういうふうにして改善がなされているのかとか、あるいは地域の資源をどう活かすか、具体的に教えていただくと議論の参考になると思います。日本一になろうと思うと、やっぱりほかの自分たちよりいいところを知らないといけません。勝手に日本一というわけにいかないですから。それをちょっとご提案をしたいと思います。

ですので、4つの柱とまた違うことになるかもしれませんが、先進事例を勉強するという作業グループ、あるいは作業シートみたいなものをどこかに付け加えていただけないかという2点です。

(公募委員) すみません、ちょっと説明の仕方が私、悪かったんですけども、今回たくさん書かせていただいたアンケートしていただきたい項目についてというのは、事務局の小野寺さんとお電話で昨日からお話をさせていただいて、私自身、新宿区、千代田区、豊島区がすごくあこがれの区で、この辺あたりを直接インターネットで見たりもしたんですが、ちょっと子どもが小さくて、電話中もまとわりつくので、1本区役所に電話をかけるだけでもくたくたになってしまって、どうしましょうという話を相談して、じゃあうちの(小野寺さんの)部署の方で調べますから、何を調べてほしいのか挙げていただけますかと言ってくださったんですね。これは、私が調べてくださいという項目の一覧表なんです。ですので、小野寺さんはもう調べてくださる心積もりだと思っております。

(会長) 今のご意見で、4つの柱には入りきらないけれども非常に大事だというのは当然出てくるんではないですか。それで、5本目の柱というのがその後何か、名前は何かわかりませんが、たぶん立ってくるんだらうと。それがたぶん、次につなげるような視点というものを含んだような項目になってくるんではないですか。

本当に、私自身だって十分に議論できる時間があつた方がいいと個人的に思っています。ただ、一応行政上のスケジュールとかあつて、これはもう来年の3月までに一応形をつくってほしいと。

となりますと、実は中に、先ほど5年ぐらいの計画にとどめるべきだというご意見がありましたね。ということは、ビジョンといっても、これは第1次ビジョンとか、ビジョン2006とか、そういうもので引き続きこれについてさらにもっと検討していかなければいけないことがたくさんあるんだということを書き残しておくべきだと思っております。

それから、どう具体化するかということ、例えば保育の専門性を高めていくということになっていきますと、こういうこともやってほしい、こういうこともやってほしいと。でも、ビジョンの中にはそんなに細かく書き切れないわけですね。そうなりますと、文京区独自の保育の新しいガイドラインをつくる委員会を、ぜひこの後に具体化してほしいということを書き込んでおくという形で、一歩出るような案をビジョンの中に残しておくということをいろいろ考えていかないと、全部は詰めきれないと個人的には思っているんですね。ですからそういう形で、必ずその後、こうやって具体化してほしいという案をいくつか並べていかなければいけないとは個人的に思っています。

ただ、先ほどいろいろ出ていましたけど、これは勝手にどんどん延長するわけにはいかないんですよ(笑)。ですから一応、ひとまずは3月までに何とかある形を整えて、しかし、これはとても全部議論しきれなかったということで、その第1次案として出すとか、何かしておかない

といけないと個人的には思っています。

(団体推薦委員) 私も賛成でございます。とにかくメニューをいっぱい出して、次につながるものを出していかないといけないと思います。

実は、たぶん区の方々はずるずる延びてしまうことに対して非常に恐怖感を持っていらっしゃると思っています。それは実は、あり方検討協議会の中で、1次、2次、3次とあって、最後には3次の報告書を出して、それを区長が受け取る、受け取らないということで結構もめたんですね。

そのあり方検討協議会というのは、区と保護者が協働で作業をして、しかも区の機関としてやっていただいたものなんです。そこでビジョンを考える、保育園だけじゃなくて、子育て全般についてビジョンを考える委員会を立ち上げる必要がありますよねということで、実はその報告書の中に提言を書いています。

今日お配りしている資料の中に、その報告書のビジョンに関する部分の抜粋を付けてございますので、できれば皆さんによく見ておいていただきたいと思います。当然、非常に不十分なものだと思います。保育園の関係で議論されたものでしかないものですから、もっともついろいろな多角的な視点から見る必要があるということは我々も自認していたので不十分だとは思いますが、一応そういう経過がありました。

ですから、まずはこの3月までに全力投球をして、もしそこで出し切れない問題があったら、To be continued 次に続くということで、もうしょうがないかもしれません。ですから、ここで終わりだというふうに言い切られない。言い切ってほしくないということだけ確認したいというのが、我々の意見です。

(団体推薦委員) 何か発言しないとまずいので、最後になりましたがちょっと言わせていただきます(笑)。我が子を育てるのは当たり前のことだと私は思っておったんです。ところが、いろいろ最近皆さんのお話を聞きますと、社会的に非常に子育てが重要なことであると。しかも、社会は知らん顔できないということに初めて今、ここで気が付いた次第でございます。

それともう1つは、文京区の区民憲章という憲章があるんですが、そのときに私は区議会でも参考人として発言した一員としてここで申し上げますが、素晴らしい区民憲章です。そのときに言われた言葉が、「かかわり合い、助け合い、話し合おう」この3つがあるわけです。先ほど皆さんが、困ったとかいろいろなお話がありますが、この話し合いということが非常に重要なんです。そうすることによって援助だとか、それから道が自然に開けていくんじゃないかなとつくづく思っております。

最後に、皆さんはお子さんのことをいろいろとおっしゃっていますが、今度は親としての責任があるんだと思うんです。それは家庭のしつけ。これは保育所だとか幼稚園だとか小学校でやるんじゃないで、生まれたときの家庭のしつけ、これは親の最高の責任だと思います。お子さんが成人するまで、立派に育てるためにしつけをやる。それから先に保育所、幼稚園、小学校で、あとは補充をしていくということを中心として考えないと、社会がしつけから何から全部やるとか、そういうような考えでいくとちっとも話が進まない、というのが私個人の意見でございます。

最後に申し上げますが、子どもは親の背を見て育つということが昔から言われております。親はお子さんに一生尊敬されるような親になってほしいなと思います。またお子さんも、親に最後には感謝、感謝の気持ちで一生を過ごすように、ぜひこの場でそういうビジョンをつくるときに、そういうことを基礎としてやらないと、末端に枝葉末節のことをぼんぼん言うんじゃないで、根本はこういうことであるということをごひ入れていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(会長) 4本の柱がございますね。そのうちの2つ目が、子育て、親育ちの支援とっております。社会が子育てを応援していくということが、親がきちんと子どもをしつけるということをあいまいにすることになってはまずいわけですね。ですから、親がきちんと子育て、あるいはしつけができるように社会が応援していくという、そういう柱をここで立てているわけで、必ずしも矛盾するというふうにならないように私としては考えているんですけれども。おっしゃることはとてもよく分かります。

(団体推薦委員) 先ほど言われた中で、あり検というものがあつたんですけれども、それは第1次、2次、3次という中で、役所の方と保護者の中で検討されたものなんです。保育の質・指標というお配りしたのものがあると思うんですけど、この保育内容に関しては厚生労働省の方の指針を基にしているんですけれども、あとはこれを具体的にどうしていったらいいかということの具体例とか、話し合ったことが書かれているのと、あとは保護者の方で参考意見をいろいろ読みあさって、保育の質についてまとめたものです。これを今後も盛り込んでいただければいいなとは思っているんですけれども。

私は文京区で生まれ育ち、子どもを通わせている保育園の卒園児であり、そこにいらっしゃる吉田園長が私の年長児のときの担任の先生だったんです(笑)。自分の子育ての中で思うことは、本当に生まれた瞬間に人は人ではなくて、そこからしつけられて、友情とか愛情とか覚えて、挫折とか後悔を学んで、それで人間になっていくんだなと思うんですね。その中でかかわっていく教育者、保育者、それこそ親、周りの大人たちの意識改革というか、やっぱり親の頭の中身というのをこれからは改革していかなければいけない時代になっていくんじゃないかなと思います。

教育者でも保育者でも研修プログラムというのはあるんでしょうけれども、子育てをしている親についても、そういった研修というんですか、講座みたいなものをどんどんプログラムしていただければなと思います。

ちょっと余談なんですけど、1カ月前にちょうど区長さんと1対1で話すときがありまして、この保育ビジョンのことについてお話しさせてもらったときに、何で3月までなんですかとおうかがいしたんですね。そのときに、前保育課長が回答された答えが、区長の任期なんですって言われたことがあつたので、そういうふうに言われたんですけどと区長さんに言ったら、自分の任期だというのであれば4月の27日ですか？それまでだと言うんですね。ただ、3月までとたぶん答えたのは、自分の任期とかじゃなく、行政の区切りというんですか、そういうのがあるのでそこまでということ。

ただ、絶対そこまで上げなきゃいけないというふうに私たちも言われちゃうと、じゃあいいものができなくて、この程度でいいかというものをこれから生まれてくる子どもたちに与えたくはないという話をさせてもらって、それは先ほども言われた通り1次、2次、3次とあり検みたいに延ばし延ばしになっちゃうと、というのも行政の方ではあるとは思いますが、いいものを限りなくつくってほしいというふうな。3月までとは言われているけれども、1次、2次、3次があってもいいんじゃないかというようなことは、区長さんもお話しした中で言っておられました。久住さんの方では、会話の中でやりとりがなかったことなのかもしれないですけど。

(男女協働子育て支援部長) 期限につきましては、一応年度の区切りということで考えていただきたいと思います。長ければいい議論ができるかということ、そうでもないと思います。夏休みの宿題を思い浮かべていただくと、あれは40日でやりませんよね。8月31日の3日前か1週間前で仕上げちゃうという中身ですよ。短期間に集中した方が効率的な意見が出るということも考えられます。

それから傍聴者の方に言いたいんですが、発言者の意見が自分の意見と同じだと拍手をしたり、それから違うとブーイングしたりすると公正な発言を担保できないので、通常はそういう傍聴者は退室ということになります。例えば教育委員会で委員会の傍聴がありますけれども、私語をしたり、特定の委員の発言に拍手をしたりとか、そういう行いがありますと退室していただきます。ですから、それは世間のルールとしてお考えいただいた方がいいのかなと思います。

それから、私が3月まで社会福祉協議会というところの常務理事、事務局長をやっていたんですが、そのときに子育てサロンというのを立ち上げてきたんですけれども、そのときに一番言われましたのは、役所というのは、社会福祉協議会は役所ではなく、社会福祉法人なんです、声の大きな人の方ばかり、例えば保育園なら父母会で、専業主婦の人はそういう発言する場がないということで、声なき声ということ拾っていただきたいということを言われました。

(副会長) すみません、私、申し訳ないんですが、それは会の話し合いの進め方であって、例えば傍聴の方はどうあるべきとか、あるいは声なき声というのは、それはまさに会議の進め方そのものの話であって、そちらの話は汐見会長に一任されて、汐見会長は十分その部分を配慮されて話を進めているかと思うので、とりわけ傍聴のあり方については、一意見としてはあるかもしれませんが、それをここで傍聴の方に向けて言われるのはいかかなものか、適正ではないと私は思います。

あともう1点、すみません、ちょっと生意気なことを申し上げますが、このビジョンに対して宿題というのは、それは行政的な立場でおっしゃるのは非常によく分かるんですが、ここにいらっしゃる皆さんは本当にいいものをつくりたいと思っていまして、じゃあ限りある時間だと。そこはもうボトムラインだと。3月までにがんばって出していきたいと思いますということで、今、ほぼ合意ができたわけです。それに対して、もし話し合えない部分については、これからまだ可能性を残していこう。第1次、あるいは第2次という中で、今後もお話し合うという余地をつくりたい、ここまで合意しているわけです。それに対して、これはここで言うべきことではございませんが、宿題という表現はやはり、それとあと短ければ議論がよくなるとか、それは会の運営そのものの問題ですので、やはりその部分も会長に一任していただけないかと私は思います。すみません、意見を中断させて申し訳ありません。

(会長) もう時間がだいぶ、今日どうしても決めなきゃいけないのは今後の進め方として、申し訳ございませんけれども、少しそちらに議論を集中させていただきたいと思います。

先ほど言うていただきましたように、できる限り多様な意見を吸収し、議論し合いながら進めていくという点では、限られた期間であることは事実なんですけれども、やっていきたい。そのために、こちらの事務局側としては、例えばこういう4つの柱で組んでみて、まずは議論してみたらどうかと。それで、1つとは限りませんが、最低1つに入っていていただいてグルーピングしながら、そこで議論をしたらどうかという提案をさせていただいたんですけれども、それよりも、例えばブログとか何かを使って、ここで議論する時間以外のところでも議論できるような保障をつくっておくという形でやったらどうかという意見が今、出ております。その場合、別にグループに分かれる必要はないということになりますね。例えばブログの中で、①の柱についての意見はこう、②の柱についてはこうというような形でやることはできますから。

ですから今、強引に整理すると、グルーピングするという案と、グルーピングしないで多様なメディアを使いながら議論するということを始めるべきだという案と2つ出ていると解釈しているかと思ったんですが、ほかに進め方についてのご意見はないでしょうか。

(団体推薦委員) ブログについては、私が提案したことですけれども、見れない方のために、

例えば1週間に1回それをコピーして、見れない委員の方に配布して、それについて事務局の方にファックスなり何なりしていただいて、それを事務局からアップしていただくという形がいいんじゃないかと思います。

それから2点目は、ブログのルールをきっちり決めるべきだと。結局、匿名になりますから無責任な発言というものが非常に多くなりますので、これについては、例えばどこどこ在住の何歳の子どもを持っている親であるとか、その程度でいいのか、もしくは名前まで公開させるのか分かりませんが、一定のルールが必要なんだろうなと思います。それが2点目です。

それからブログ以外に、やはり面と向ってお会いして、ワーキンググループみたいなものを。この場ですと公開の場でございますので、なかなかものも申しにくいと。あと、実際どうなんだという突っ込んだ議論もなされない可能性がありますので、これをやる場をつくって見たらどうかと。実際、これもまた独りよがりの話かもしれませんが、過去やっけていて、そのとき本当に区の担当の方々とかなり一体感があって、本当に感動的な会で、非常に実のある議論ができて、結果も残せたと思っています。ですから、ぜひそういうワーキンググループみたいなものをつくっていただきたい。

あと4点目、ここでやっていただきたいのは、まず今、私どもは区の仕事のあり方というか、区を責めたいと思っているわけじゃありません。区と一緒にいいものをつくっていきたいと思っているので、ぜひその点で、もっともっと協力をしていただきたい。例えば前回、私はメーリングリストをつくったらどうかと申しあげましたけれども、結局、今日に至るまでそれができていなかった。それは会長からもご提案があったんですけども、それについて何の進展もありません。

あと、この会議を進めるにあたって、今日はどういうことを議論しますよ、だから準備してくださいねと。汐見先生はお忙しい中、これだけ準備していただいたわけですけども、それをフォローする事務局がいるはずなので、それを一すみません、お忙しいのに大変恐縮なんですけれども、もっともっとやっけていただけませんか。人手が足りないのですしたら我々も協力しますので、ワーキンググループをつくってやったらどうかと。

(会長) ワーキンググループというのは、具体的にメンバーを絞ってやるということでしょうか。先ほど私は、グルーピングするというのはグループが全部ワーキンググループになっちゃうんですけども、あまり大きいと集まりきれませんから、4つに分けてどこかに入っていていただくということで。その場合は、この7回の会議以外の会議になりますから、来れる人だけになりますけれども、それではまずいいということでしょうか。それとも、そういうことでいいということですか。

(団体推薦委員) それは皆さんで。

(会長) グルーピングをしてワーキンググループで議論をするということと、それからブログなどを使い、今おっしゃっていただいたように適宜それをコピーして、ブログに参加していない人にも送るという形、これは両方やってもいいということですね。

(団体推薦委員) そうです。

(会長) じゃあ、そのほかにご意見を。

(団体推薦委員) すみません、もう1点だけ。今までのアンケートで欠けていることというのは、ニーズの調査はできています。できているというか、一応抽象的にはできている。ただ、今、区がどういうサービスが提供できていて、他区と比べて満足度がどうなのかとか、その辺については当然できていないと思います。実際、我々が何でこんなに危機感を持っているのかというと、

文京区には愛着があるし、誇りを持っていきたいと思っっているけれども、実際、その辺のギャップが非常に大きい。このままだと、子どもとか孫の代には本当にほかの区に行かなきゃいけないんじゃないかという危機感を持っています。そこを定量化できるようなアンケートを取っていただけないか。それがまさに、一般財源をどういうふうに振り分けなければいけないか、予算を付ければいけないか、ということにつながってくるんだと思います。

(会長) アンケートについてのご意見もありましたが、その前に、この委員会の今後の進め方についてご提案がありましたけれども、それについてお願いします。

(団体推薦委員) 広くニーズを收拾するというのは、それはそれで意義があるものですが、ニーズというのはどこを向くか本当に分からなくて、みんながいろいろなことをたぶん言うんだと思うんですね。ですから、180度違った意見もその中に当然含まれてくるということだと思うんです。とにかくそれだと爆発しちゃうので、でも子どもにとってこれだけは大事だろうという共通認識というか、それをつくることもとても大事なんじゃないかという気がします。

もう時間がないのでちょっとだけしか触れませんが、例えば今、電子メディアだけで言うと、ベネッセの調査で首都圏で幼児によるメディア、テレビ、ビデオ、DVDの平均視聴時間は1人3時間49分。1日に3時間49分見ているんですね。6時間以上見ている子とかも結構いるんです。これがいいのかどうか、これをどうしていったらいいのかという、例えばそういうことに一定の価値判断がもちろん入りますけれども、それを考えていく。あるいは共通認識をつくっていく、そういう取り組みというのが必要なんじゃないかと思います。

最近のニュースであったことですがけれども、ドメスティック・バイオレンスというのは本当にひどい状況になっていて、虐待も今年が一番ひどくなっている。それから、同じベネッセですがけれども、首都圏で22時以降に就寝する幼児が、2005年で28.5%、2000年では39%います。僕なんかは小学生のときには8時に寝ていましたので、ちょっとびっくりします。メディアのことも、僕が小学生のときには1週間に1時間だったという記憶があるんですね。

ですからそういう、これで子どもの育ちにとって本当にいいのかどうかという、その視点というのはやっぱりみんなでも共有していかないといけないんじゃないかなど。もちろん、それは一義的に決まらない部分はあるけれども、そこを、やっぱりこれだけ集まって、大いに議論をして、その芯の部分というのもしっかりとつくっていく作業をしないと、親は勝手ですから。

親が勝手だというのは、その通りだと思うんですよ。僕も含めてそうなんです。例えばこの調査の中に出てきたんだけど、欠食が多いんですね。食育について、朝は食べてこない子が多いと。これは群馬県の調査です。これで欠食の多い層を見ると、その人たちの意識というのは、幼稚園、保育園でやってくれているからいいという、そういう意識なんですよ。それでいいんですか。僕は、そんなことじゃいけないと思う。そういうことを議論してほしい。

(会長) その辺は、例えば先ほど出してくださった保育の質・指標という中に、保育園で晩ご飯をどうするかというのが入っていましたね。晩ご飯だけじゃなくて、朝ご飯をどうするかというのもたぶん出てくると思います。聞いてみたら、ドイツなんかで私の知り合いの子どもが保育園に行っていますが、朝ご飯は保育園で食べているんですね。それは、日本のあれで見たら何という親だとなりがねないようなことが、あちこちで。中国なんかでは、小学生なんかは皆、学校の前の屋台で朝ご飯を食べるというのが普通になってきていますけど。だから、どうも日本の常識というのを少し、標準線を変えなければいけなくなっていると思いますが、大いに議論をしなければいけないところですね。

ただ、ここで書き切るとしたときに、そういうことに対して意見が一致するかということ、たぶ

んいくら時間があってもなかなか一致しないということになりますので、そういうことについては今後検討するというような形で、文京区の保育所としてどうするのかということについては、今回は全員の意見が一致しなかったけれどもということをつくか残しておかなければいけないわけです。だから、第1次案という形にしかならないような気がします。

(団体推薦委員) 私は民間保育園をやっておりますので、緊急一時も今年の3月までですか、目白台で5年間やりましたし、現在も一時保育をやっています。それから、区の補助もなく1カ所で一時保育をやっていますし、延長保育、それから年末の保育もやっております。そういう中で、保護者はどういう意識なり要望を持っているかということ、かなり日常的、具体的につかんでいるつもりなんです。また、実態もつかんでいる。

私の保育園と別の保育園で、利用者の意識だとか要望は違うと思います。そういう違いはありますけれども、現時点で保育所に対するさまざまな地域なり、利用者のニーズなり要望はいったい何なのかということ、具体的な数字で私はつかんでいるつもりです。ですからそういう問題について、例えば問題提起してくださいと言えば、私は自分の経験なり、保育の実態については報告して問題提起することはできます。

それからもう1つ、私が今回の議論の中で実は一番大事だと思っておりますのは、4番目に掲げている「「保育」機能の中核としての保育所」と、いったいこれは何なのかということですね。具体的にどうするのかという問題です。これは実は、今の制度改革の、例えば認定こども園ですとかさまざまな問題と、あるいは今進められている教育改革の問題の全部がかかわってくるんですね。ですから、その中核としての保育所というのは文京区の場合はどういう位置にあって、どういう役割を担っているんだと。まさに福祉事業なり、保育事業じゃなくて、子どもたちの育ちに対して中核的な役割を持っているわけです。

これは、前回の文京区のビジョンをつくるときに私は主張したんですけれども、保育園については、子育て支援の方のランクに入れられているけれども、いわゆる乳幼児の育ちなり、教育の方に入っていないわけです。結局時間切れで入れてもらえませんでしたけどね。そういうかなり本質的な問題がこの4項目の中にあると思っております。これが具体的に皆さんの中で意思の一致がある程度図られれば、保育所というのは何なのかということ、全部つながって、明らかにできる問題だと私は思っています。

ですから、ぜひそういう具体的なことをきちんとみんなの意見を出し合って、つなげていただきたい。それをすることによって、いわゆる保育所については何なのかということ、私は1つのビジョンとして明らかにすることはできると思います。

(会長) 分かりました。次回、ぜひ少しまとまったご提案をお願いできますでしょうか、全体会議のときに。保育園を利用させてもらっている側の意見はずいぶん出ているんですが、その保育園を担当している側の意見をまとめておうかがいしたいということで、先ほど少し出ていましたね、子どもの感性の問題とか。だから、保育園側から見た保育園のこれからのビジョンというんですか、そのことの視点のようなものを次回出していただけますか。お願いしておきます。

申し訳ありませんが、時間が少しオーバーしていますが、大急ぎで今日どうしても進め方だけ決めていきたいと思っております。先ほどの議論の中で、一応この会議だけではなくて、過程の中でも議論ができるような形で、例えばブログという形がいいのではないかというのが出ていましたけれども、それを立ち上げるということについてはよろしいでしょうか。自分はインターネットを使っていないという方に対しては、とにかくどんどん送っていくということで、そしてご意見をいただきたい。これはそういう形でよろしいでしょうか。行政がやるのではなくて、コモンさ

んが管理してくださることはできますか。

(コモン計画) 委託内容を変更していただければ、それは可能です。

(会長) そうですね。ちょっとそれはやってみた上で、少しあれしないといけないかもしれませんね。

(団体推薦委員) それは誰でもいいという形ですか。

(会長) ただルールがあって、どなたでもいいとなっちゃった場合には、ちょっと大変なことになってしまうので、一応このメンバーでということ始めて、そしてそのメンバーに関連する人たちの意見はその人が代表して書くというようにやらないと、普通に来られたら、無責任な意見がどんどん出てきますので。

(団体推薦委員) メンバーのブログということですか。

(会長) そうです、最初は。

(団体推薦委員) それだったら、メーリングリストをお願いしたいです。

(会長) メーリングリストでも結構です。

(団体推薦委員) ブログというよりは、メーリングリストの方が。もしこのメンバーであるのであれば。

(会長) メーリングリストの方がやりやすいですね。

(団体推薦委員) ブログは見に行かなくちゃいけないので、メールは向こうから。

(会長) 少なくとも、僕ができるだけお願いしたいのは、とにかく前向きにビジョンがまとまるという方向で議論をしていただきたいということです。

(団体推薦委員) 対象については、基本的に、例えば区民に絞るかどうかというのはありますけれども、誰でも書いていただいていると思うんです。ただ、我々の責務はそれをまとめる。だから、それだけに引っ張られない、それをうのみにしない。それを取捨選択して、これはいい意見だ、悪い意見だということを我々が決めれば、誰から受け付けてもいいんじゃないでしょうか。

最終的に中間報告とかまとめるときですね、こういう意見もあるねということで、たぶん害になる意見ってないと思うんですよね。ここで限る必要はないんじゃないかなと。

(副会長) 例えばこういう案はどうでしょうか。一番初めのスケジュールで汐見会長から示されたのが、12月に中間まとめということで、その後すぐパブリックコメントに出すようなんですね。なので、いったん中間まとめのところまで、このメーリングリストで議論をして、中間まとめまでもって行って、それをパブリックコメントという形で公開して、その後はいろいろ批判を加えていただき、その意見を反映させながら取捨選択して、最終の第1次最終報告書まとめという形でもっていくというのではいかがですか。いったんはメーリングリストで、この中で議論は年内はすると。パブリックコメントにもっていくと同時に開いていくという。いかがですか。

(団体推薦委員) 文字で議論することは、僕、避けた方がいいと思うんです、この委員会があるわけですから、いろいろ広く意見を聞くというスタンスだけで、議論はこの会でやった方がいいと僕は思います。文字っていろいろな障害が起きますし、顔を見て発言できないところもありますので、違うことで伝わってしまうという可能性もありますので、議論はここで、いろいろ意見を広く聞くのはブログの世界、メーリングリストでという話の方がいいと思います。

(会長) そうきれいに分かれるかどうかというのは難しいですけどね。やっぱり議論が起ってしまうということはありませんね。

(団体推薦委員) 難しいですね。

(公募委員) 私自身も、仕事上で何げに書いたメールが違うように取られてしまって、という

のは本当によくあることなので、このメンバーではメールというよりも、逆に何か顔合わせをする場所が、もう少し中間みたいなのがある方が、まだメーリングリストよりいいような気がするんです。

ブログですか、こちらに関しては、やはりいろいろな方からの意見を聞くというところにポイントがあるんじゃないかなという気がするんですが、ただ、例えばサイトで公開された私たちの意見に対して、あの人は言い過ぎだとか、そういうのが出てきたとしたら、そういう中傷とかそういうものはカットする機能がどこかにないと、それはまた爆走するきっかけになってしまうと思うので、そこをしっかりと押さえていただければよろしいんじゃないかと思うんですが。

(団体推薦委員) コモンさんが削除することはできないと思うんです。だからこれは不適切だよねというのを誰かが判断しなければいけないんですけど、たぶん汐見先生もお忙しいし…。

(会長) それを細かくやっているよね、別に経費をいただきます(笑)。

(団体推薦委員) 例えば久住課長が…。

(公募委員) どなたか1人となると、その方がパンクしちゃいますよ。

(会長) ただそれは、また行政がやったということで、私の意見をどうして削除されたのかということがありますよね。

(団体推薦委員) だから、誰かがやることについてまず信任を取って、それはいいですよ。誰がやるかという話は、後で決めませんか。

(公募委員) でもそれは、もし外注に出すなら予算ありきの話で、私たちが決めてよろしいものなのかという話もあると思います…。

(団体推薦委員) コモンさんは予算もらってもできないじゃないですか。

(コモン計画) 中間的な立場でやらせていただいているということであればやりますよ。

(保育課長) ちょっとよろしいですか。事務局で作業が大変になることについてどうのこうのということではないんですけども、いわゆるこういった形で中間のまとめなり何なりという形になると、さっき萩原先生がおっしゃったような形で、メールなりファックスなり、さまざまな方法でご意見をいただくということについては、すべて事務局の方でとりまとめをして、誹謗中傷になるような部分についてはどうするかというのは検討しますが、ビジョンにかかわりはないのではないかとのご意見まですべて載せる、もしくは整理をするという形は取っていますので、柱立ての検討をもう少し煮詰めるというような意味合いであれば、もう少し先に皆さんのご意見を聞く。その中で補強していくということは十分、このビジョンでなくてもやっていることですので、そういった部分の方がイメージとしては取りやすいのかなというのは。

(団体推薦委員) 具体的にどういうご提案なのか…。

(保育課長) ですから、中間のまとめでパブリックコメントをかけますので、その段階で広く区民の方からご意見をいただいて、それを皆さんで議論していただくというような形はできるんじゃないかと。萩原先生のご意見と同じです。

(団体推薦委員) 従来のやり方はそうだと思うんです。すみません、萩原先生にどうというわけではなくて、ここの委員会独自のやり方があってもいいんじゃないかなと。

(会長) 萩原さんの先ほどのご意見は、中間まとめ、12月までは一応内部のメーリングリストか何かでやって、そしてある程度まとまった段階で出したときに、みんなが参加できるような何かをつくったらどうかというご意見ですが、どうでしょうか。

(団体推薦委員) 中間まとめでどれくらいのものが出来上がるか、すごく自信がないので。

(会長) それは誰も自信がないですけどね。

(団体推薦委員) もっと広く、こんなものもある、こんなものもあるって。

(会長) ただ中間まとめは、だいたいこういう項目が今出ていますという、中身はあまり細かく書き入れないんですけども、たぶんそこまではもっていかないといけないという。

(団体推薦委員) だとしたら、もう今の、今日お話しした内容、こういう項目が挙がっていますと。例えばこういう意見を求めて、それを今、パブリックコメントを出して意見をもらった方がいいと思うんです。

(会長) それは、実はアンケートをどう取るかということと実はかかっているわけです。

(団体推薦委員) その省力化のためにも、ブログがいいんじゃないかなと思うんです。

(会長) 私は、さっき出していただいたこういうアンケートが、生の声が一これはメールか何かかかもしれませんけど、これがある程度まとまったら、これを整理した上でビジョンのプランと並行した冊子として付けて出すべきだと思っているわけです。これが生の声なんですという形を。それをどういう形で集めるかということについて、次回それを相談しようと思っていた。そこで決めてスタートさせたかったわけですが、今のようなご意見だと、例えばブログを公開することによって、その中のこれはぜひ伝えたい意見だということについては伝えられますよね、ある程度。だから、アンケート代わりという面もありますよね。

(団体推薦委員) だから、どうでしょう。

(会長) 次回もう1回それを議論させてもらうということにするということで、どうでしょうか。もうだいぶ先になっちゃいますけどね。

(団体推薦委員) それと、進め方も含めて、どこかで1日いただけませんか。それは公開じゃなくていいと思うんです。

(会長) ただ、ブログを公開するかどうかということについて、もう1回議論しますけれども、例えばさっき言った、もっと顔を突き合わせて本音の議論をできるようなワーキンググループというのを立ち上げるかどうか、私は最初にそういうのを立ち上げるために4つのグループにということで申し上げたんですけども、その方がある程度絞られるということがありますので。あまり大きくしちゃうと議論しにくいということがあって、そういうグループを出発させることについてはどうですか。

(団体推薦委員) まずどうでしょうか、そこで、ワーキンググループをまず1つ立ち上げて、本当に4つに分けた方が建設的なかどうかということについて議論する。

(会長) 1つだけということは何？

(団体推薦委員) みんなで、まずは1回。そこから4つに分かれるのか…。

(会長) 時間もあまりないということがあるんですけど、そこではむしろ、例えばもうちょっとこういうのを聞いていこうよとか、他の区はどういうことをしているのか情報を集めてこようよとか、そういうのをどんどん持ち込んでという議論をしていただきたいわけです、そこでは。

(団体推薦委員) そうなんです。

(会長) ですから、そこはもうかなり自由な…。

(団体推薦委員) ここは緊張して、緊張してというか、やっぱり発言の内容を気にしなきゃいけない方々もいらっしゃるんで、そこでどんどん建設的な議論ができると思うんです。

(会長) それを一応、1つだけというのではなくて、4つ一応つくっておいてというふうにしたらまずいですか。4つとも出たいという方はもちろん自由ですけども(笑)。

(団体推薦委員) すみません、今日はちょっと仕事の都合で遅れてしまって申し訳ありません。議論の様子が分からないので的外れなことをおうかがいするかもしれないんですけども、今日

出てからの話を聞いていて、前回は私が強調させていただきました特に配慮を要する子どもについての課題が、全体の話の中でやっぱり薄くなってしまおうということを非常に感じまして、私はむしろワーキンググループの中に、前回は話したように役所のほかの部署の方にも入っていただいて、専門的な立場から検討するというような、そういうワーキンググループをぜひつくっていただきたい。そのワーキンググループのつくり方についてまず検討することと、12月に向けてということを見ると、私は特に配慮を要する児童に関する部分については、もうそこだけは先にワーキングのような形で、庁内横断的な組織をぜひ区の方で立ち上げてもらって、集中的に検討するというようなことをしていただきたいなと思います。

それに関しては、おそらくブログではなかなか書き込みしにくいところがありますし、そういう資源を持っていない方が特に多いと思えるので、今までの議論が分からないのであれですけども、その部分についてはちょっと先立ちのような形で進めていただけるといいんじゃないかなというふうに思います。

(会長) それは、この4つのどこかのグループの中でやるということではなくて、特別にそうやって立ち上げた方がいいですか。

(団体推薦委員) 正直に、しつけなくちゃいけないとか、保育園がやってくれるからいいと思っている親が多いと言われるとすごいきついですね(笑)。それで何とか子育てしてきた部分が非常にあるので、うちではとにかくたたかないことだけを考えようみたいな。しつけは保育園で、おむつは保育園で外してもらおう。うちでは、とにかく楽しく過ごそうみたいな感じで育てている障害児を持っている家庭も多いので、一緒でもいいんですけども、なかなかちょっときつい場面もあるのかなとは思いました。

(会長) それは例えば、②の柱の中の大きな柱としてはまずいでしょうか。

(団体推薦委員) そうですね、それと②のところ、ちょっとあまりにも地域資源が強調されているんですけども、今もお話ししましたように、このことについてはまず区が何をどういうふうにするかというところが検討されて、その後に地域資源とどうつなげるかということになっていくかと思うんですけども、その部分がちょっと入っていないので。

(会長) それは例示してあるだけで、これはどんどん入れていただきたいというのが今日のお願いなんです。

(団体推薦委員) 例えば特に配慮が必要な児童ということで、どういうところがそこに入ってくるのかという検討をたぶん区ではしたことがないかと思うので、その辺から始めていただいて、そこにほかの課題の人も一緒に入るのかということが、その中からまた逆に見えてくるんじゃないかなというふうにも思います。

(会長) ちょっとすみません、例えば今のことを議論するようなワーキンググループを立ち上げるということはいいですか。例えば、②の柱の中でそれをやることに決めておいてということやってよろしいですか。

(団体推薦委員) はい。どちらかという細かいワーキングの方がいいかと。

(会長) そこでぜひ、区のこういう担当者に参加してもらおうということは、その中で要請していくということですよ。

(団体推薦委員) ワーキングの仕方についてもいろいろ工夫が必要だと思いますが、賛成します。その上で、4つの柱の落とし方は、区長から諮問を得たこと、非常に素直な文章なので、1時間ちょっと前の発言に戻りますけど、これ自体は非常に素直な整理をされていると。

その上で、今のワーキングということにならないかもしれませんが、ちょっと繰り返して恐

縮でございますけど、保育ビジョンは、まず理念を考えて、それから2番目に総論をやって、いきなり方向性にあっておりますので、この間にもしできれば1つ柱をつくっていただいて、謙虚に他区の事例に学ぶ。それからもう1つは、次回議論するアンケートにつながりますけど、謙虚にみんなの声を聞くと。そういう、ちょっと謙虚に勉強する作業を入れたらどうかと思います。

(会長) 先進事例にいろいろ学ぶという柱を、ビジョンにどういうふうに反映するかということとは別ですけど、作業の手順としてですね。

(団体推薦委員) そうです、作業手順として。

(会長) そういうのを少し真ん中に入れたらどうかということで、非常にやりやすそうなお提案だったと思います。そういうのをちゃんと入れてみて。欲張っていきますと、例えば福井県は出生率が唯一回復している県で、何でかぜひ行ってみたいというようなことまで出てくるかもしれません。それは予算との関係でどこかで切らなければいけませんけど、そういうことも含めて、先進事例というものに学ぶということを少し入れておくと。

各グループでワーキング議論をしているときに、こういう先進事例があるんだということがあったら、どんどんそれを紹介していただくという形でやっていただきたいです。そうしないと、それだけを別に柱立てしてグループをつくるということは、なかなか難しいかもしれません。

(団体推薦委員) 柱立てしてグループをつくるのは、私もあまり現実的はないと思いますので、そういうのが出たときに、繰り返しになりますけど、せっかく小野寺さんとか調べはじめてくれるわけですから、それをどうフィードバックするのかというプロセスをどこかで作りませんかということ。

(会長) 分かりました。要するに、今は1、2、3本柱になっているわけですね。1が本当に総論の総論みたいなもので、それから2がいわゆる総論で、それを具体化するために4つの柱を立てましたというのが出てきている。その内容が今度は3の柱に出てくるんだけど、その真ん中に先進事例に学ぶというような柱をもう1本立てて、そこにみんながいろいろ調べてきて、これはぜひ文京区でも実現しようというようなものを少し反映していくというような作業、手順をしたらどうかということですね。非常によく分かります。

それでは、もう本当に時間もなくなって申し訳ありませんが、1つだけ立ち上げたらどうかというご意見はあるんですが、皆さんにお願いなんです、私としてはそうやってどこかのグループが遅れてしまったということが起こるということを恐れていまして、できたらどのグループも、2~3人でも結構ですから、スタートしていただければと思っています。

この委員の皆さんに、私はこのグループで少し突っ込んだ議論をさせていただきたいというふうに、それぞれ希望を出していただきたいです。先ほど申しましたけれども、別に1つに限る必要はない。ここもぜひ参加したいということであれば、やっていただきたいと思います。

これはどうしましょう、挙手をしていただきますか。それとも申告していただきますか。

(副会長) 後で聞いて、こちらで調整を。

(会長) たぶん、もう9時半になっていきますので、いろいろまた議論が長引くと困りますので、一応皆さんにご意見、ご要望を個別におうかがいすることにさせていただきたいと思います。その中で、ぜひ世話役をやってくくださるという方に手を挙げていただきたいんですが、そこで、どうしても24日にしかスタートできませんでしょうかね、グループも。

(団体推薦委員) 一遍ちょっと、その間に1日入れていただければ。ちょっと無理ですか。

(会長) 子育ての方もいらっしゃるので、なかなか。

(公募委員) 保育室さえ確保していただければ。

(会長) そうですか。24日の前に、1回そういうグループが立ち上がれば、それは望ましいと思うんですが。

(副会長) まずグループ分けのためですね。

(団体推薦委員) グループ分けもそうだし、あとさっきのブログの話もそうだし、もっともっと手続き的に潤滑に進めるための。

(会長) 要するに、そのときにグループ分けをして、グループ分けの議論がすでにはじめられるような会議が行われればいいわけですね。

(団体推薦委員) そうです。

(会長) ただ、皆さんの日程を今から調整している時間はたぶん取れないと思いますので、皆さんに何日がいいかと順番に聞いていくわけにはいかないのです、どうしましょうか。

そういう会議について、ちょっと今、日程の都合を聞いた方がよろしいですか。

今度は実は24日なんですけど、その間というと16日の週か、9日の週ですね。9日の週といいますと、10日から実際は13日までしかありませんが、このあたりに1回持てるかどうか。24日は火曜日ですから、火曜日が都合がいいとしたら、17日か10日ですね。火曜日は、毎回火曜日ではまずいですか。どうですか。

(団体推薦委員) 10日の火曜日はもう埋めてしまって、月1回だと思っていて、ごめんなさい。できれば違うところで。

(副会長) じゃあ、取りあえずいったんこちらの方で持ち帰って、日程調整をして、候補を皆さんにご連絡するなりしたいと思います。

(会長) じゃあ、それを大急ぎでやっていただけますか。

(副会長) いかがですか。

(会長) この日か、この日かというのを3つぐらい挙げていただいて、それでさっとお返事をしていただいて、この日に決まりましたから、すみませんがということで、申し訳ありませんが。

これは7回の会議とは違いますので、そんなに無理をしていただいてというのではありませんけれども、一応スタートさせたいということで、すみません、1回だけ。それでは、それを調整していると時間がかかりますので、こちらから候補日を連絡いたします。

(公募委員) スケジュールを立てる際に、公募委員4名を優先的にスケジュールを考えていただけませんか。ぜひ私たち、言いたいことが、聞いていただきたいことがあって来ますので、すみません、私事で帰省をしたりして空いているスケジュールが少ないもので、優先順位を考えていただくと大変ありがたいです。

(団体推薦委員) それとの関連ですけど、こちら側はもしかしたら全員そろわないかもしれませんが、代理をお認めいただきたいと。

(会長) それは前も認めていますので。そんなことをしたら、公募も代理を認めろということになって(笑)。

それでは、次回は24日ですが、そのときには保育園の方から子どもたちの様子だとかいろいろ出していただいて、保育園のこれからの、保育園側から見たビジョンのようなものを提案していただくということで。そのときには、アンケート調査をどうするかということについて、もう1回議論させていただきたい。さっきブログのようなことが出ていますので、そういうことも含めて少し提案させていただきたいと思います。

その前に1回、スタートさせる議論を行いたいと思いますが、よろしくご協力をお願いします。今日はどうもすみません、私がちょっと最初に興奮いたしまして、申し訳ありません。

(団体推薦委員) いえいえ、お手柔らかに (笑)。

(副会長) 私もでした (笑)。

(会長) どうもありがとうございます。